

**IBM® WebSphere® Commerce
for Linux®**



クイック・スタート

バージョン 5.4

**IBM® WebSphere® Commerce
for Linux®**



クイック・スタート

バージョン 5.4

ご注意

本書の情報およびそれによってサポートされる製品を使用する前に、83 ページの『特記事項』に記載する一般情報をお読みください。

本書は、IBM® WebSphere Commerce Professional Edition and Business Edition for Linux のバージョン 5.4、および新しい版で特に示されない限り、その後のすべてのリリースおよび修正レベルに適用されます。製品のレベルに合った版であることを確かめてご使用ください。

本マニュアルに関するご意見やご感想は、次の URL からお送りください。今後の参考にさせていただきます。

<http://www.ibm.com/jp/manuals/main/mail.html>

なお、日本 IBM 発行のマニュアルはインターネット経由でもご購入いただけます。詳しくは

<http://www.ibm.com/jp/manuals/> の「ご注文について」をご覧ください。

(URL は、変更になる場合があります)

原 典： GC09-4970-00
IBM® WebSphere® Commerce
for Linux®
Quick Beginnings
Version 5.4

発 行： 日本アイ・ビー・エム株式会社

担 当： ナショナル・ランゲージ・サポート

第1刷 2002.6

この文書では、平成明朝体™W3、平成明朝体™W9、平成角ゴシック体™W3、平成角ゴシック体™W5、および平成角ゴシック体™W7を使用しています。この(書体*)は、(財)日本規格協会と使用契約を締結し使用しているものです。フォントとして無断複製することは禁止されています。

注* 平成明朝体™W3、平成明朝体™W9、平成角ゴシック体™W3、
平成角ゴシック体™W5、平成角ゴシック体™W7

© Copyright International Business Machines Corporation 1996, 2002. All rights reserved.

© Copyright IBM Japan 2002

目次

第 1 部 WebSphere Commerce のインストール準備 1

第 1 章 WebSphere Commerce へようこそ	3
本書で使用する規則	3
デフォルトのインストール・パス	4
サポートされている Web ブラウザー	4
WebSphere Commerce によって使用されるポート番号	4
WebSphere Commerce で使用されるロケール	5
ユーザー ID、パスワード、および Web アドレスのクイック・リファレンス	6
第 2 章 インストール前の要件	9
知識に関する要件	9
前提条件となるハードウェア	10
前提条件となるソフトウェア	10
その他の要件	11

第 2 部 WebSphere Commerce のインストール 13

第 3 章 IBM DB2 ユニバーサル・データベース 7.1.0.60 のインストール	15
プリインストールのステップ	15
インストール手順	15
DB2 フィックスパックのインストール	18
データベース・マネージャーで jdbc2	19
WebSphere Application Server データベースの作成	20
データベースをローカルに作成	20
WebSphere Application Server データベースへの接続の検査	21
次のステップ	21
第 4 章 WebSphere Application Server のインストール	23
章のチェックリスト	23
同じマシンへの WebSphere Application Server と IBM HTTP Server のインストール	23

IBM HTTP Server Administrator のパスワードを作成する	25
IBM HTTP Server 管理サーバーのセットアップ	26
WebSphere Application Server フィックスパックと eFixes のインストール	26
インストールのテスト	28
次のステップ	29

第 5 章 WebSphere Commerce 5.4 のインストール	31
インストール手順	31
次のステップ	32

第 6 章 IBM Payment Manager 3.1.2 のインストール	33
インストールの前提条件	33
Payment Manager のインストール	34
Payment Manager 管理者の役割	35
Payment Manager マシンの構成	36
次のステップ	37

第 3 部 WebSphere Commerce インスタンスの構成 39

第 7 章 構成前のステップ	41
インストール後スクリプトの実行	41
WebSphere Application Server の開始	42
次のステップ	42
第 8 章 構成マネージャーでのインスタンスの作成	43
章のチェックリスト	43
構成マネージャーの立ち上げ	43
インスタンス作成ウィザード	44
インスタンス	45
データベース	45
言語	46
Web サーバー	47
WebSphere	47

Payment Manager	48
ログ・システム	49
メッセージング	50
オークション	51
インスタンス作成の検査	51
次のステップ	52

第 9 章 構成後のステップ 53

JavaServer Pages (JSP) ファイルのコンパイル	53
テスト用セキュリティ鍵ファイルの作成	54
Payment Manager を WebSphere Commerce 共に稼働するように構成する	54
Payment Manager 設定の構成	56
セキュリティ・チェッカー・ツールの実行	56
次のステップ	57

第 4 部 WebSphere Commerce でのストアの作成 59

第 10 章 サンプル・ストア・アーカイブからのストアの作成	61
ストア・アーカイブの作成	62
ストア・アーカイブの公開	63
ストア・サービスからのストア・アーカイブの公開	64
ストアでのテスト・オーダーの発行	66

第 5 部 付録 67

付録 A. WebSphere Commerce コンポーネントの開始と停止 69

WebSphere Commerce の開始と停止	69
WebSphere Application Server の開始と停止	69
IBM HTTP Server の開始と停止	70

DB2 ユニバーサル・データベースの開始と停止	71
-----------------------------------	----

Payment Manager の開始と停止 71

Payment Manager アプリケーション・サーバーの開始	72
Payment Manager の開始	72
Payment Manager ユーザー・インターフェースの開始	73
Payment Manager の停止	74
Payment Manager アプリケーション・サーバーの停止	74

付録 B. 本書の追加情報の入手先 75

WebSphere Commerce 情報	75
オンライン・ヘルプの使用	75
印刷可能な文書の調べ方	75
WebSphere Commerce Web サイトの表示	75
IBM HTTP Server 情報	76
Payment Manager 情報	76
WebSphere Application Server	77
DB2 ユニバーサル・データベース情報	77
ダウンロード可能なツール	77
WebSphere Commerce Installation and Configuration Checker	77
その他の IBM 資料	77

付録 C. プログラム仕様および所定オペレーティング環境 79

特記事項	83
商標	85

索引 87

第 1 部 WebSphere Commerce のインストール準備

このセクションの章では、WebSphere Commerce についての基本的な説明のほか、前提条件となるハードウェア、ソフトウェア、必要な知識、および WebSphere Commerce を首尾よくインストールするために必要な権限についての説明がなされています。ご使用のシステムで、これらの章に示されている要件がすべて満たされるなら、インストールはかなり容易になります。

WebSphere Commerce のいずれかのコンポーネントをインストールしようとする前に、必ず以下の章をお読みください。

- 3 ページの『第 1 章 WebSphere Commerce へようこそ』
- 9 ページの『第 2 章 インストール前の要件』

第 1 章 WebSphere Commerce へようこそ

本書では、WebSphere Commerce 5.4 のメイン・コンポーネントを 1 台のマシンにインストールして構成する方法を説明し、サンプル・ストアの中から 1 つを作成する方法を示します。本書は、システム管理者や、インストールおよび構成作業の担当者を対象にしています。拡張構成のシナリオについては、「WebSphere Commerce 5.4 インストールの手引き」を参照してください。

WebSphere® Commerce Studio のインストールおよび構成についての説明は、「*IBM WebSphere Commerce Studio for Windows NT® and Windows® 2000 インストール・ガイド*」を参照してください。

製品への最新の変更については、README ファイルを参照してください。このファイルと、本書の更新版は、以下の WebSphere Commerce Web サイトの Library → Technical Library セクションから PDF ファイルでご覧になれます。

<http://www.ibm.com/software/webservers/commerce/library.html>

本書で使用する規則

本書では、以下の規則を使用します。

太字体	コマンドまたはグラフィカル・ユーザー・インターフェース (GUI) コントロール (フィールド、アイコン、またはメニュー選択の名前など) を示します。
モノスペース	ファイル名やディレクトリーのパスおよび名前など、示されたとおりに正確に入力する必要があるテキストの例を示します。
イタリック体	語を強調するのに使用されます。イタリックは、ユーザー自身のシステムで該当する値に置換しなければならない名前を表すためにも使用します。
<i>host_name</i>	使用する WebSphere Commerce サーバーの完全修飾ホスト名 (たとえば <code>server1.torolab.ibm.com</code> は完全修飾名)。
<i>instance_name</i>	作業している WebSphere Commerce インスタンスの名前。

デフォルトのインストール・パス

本書でインストール・パスを参照する場合には、以下のデフォルトのパス名を使用します。

WebSphere Commerce 5.4	/opt/WebSphere/CommerceServer
IBM DB2 ユニバーサル・データベース 7.1.0.60 エンタープライズ版	/usr/IBMDB2/V7.1
IBM HTTP Server 1.3.19.1	/opt/IBMHTTPServer
WebSphere Application Server 4.0.2	/opt/WebSphere/AppServer
IBM WebSphere Payment Manager 3.1.2	/opt/PaymentManager

サポートされている Web ブラウザー

WebSphere Commerce のツールやオンライン・ヘルプには、WebSphere Commerce マシンと同じネットワーク上にある、Windows オペレーティング・システムが稼働するマシンから、Microsoft® Internet Explorer 5.5 を使ってアクセスできます。Internet Explorer は、Microsoft の最新の重要なセキュリティー・アップデートが適用されているフル・バージョン 5.50.4522.1800 (「Internet Explorer 5.5 Service Pack 1 とインターネット・ツール」ともいう) 以降のものでなければなりません。—それより前のバージョンでは、WebSphere Commerce ツールの機能が完全にはサポートされません。

お客さまは以下の Web ブラウザーならばどれを使用しても Web サイトにアクセスできます。以下の Web ブラウザーはすべて WebSphere Commerce でテスト済みです。

- Netscape Navigator 4.04、および 4.5 を含む、Netscape Communicator 4.6 でサポートされている Netscape Navigator のすべてのバージョン
- Macintosh 用の Netscape Navigator 3.0 および 4.0
- Microsoft Internet Explorer 4 および 5
- AOL 5 および 6

WebSphere Commerce によって使用されるポート番号

次のリストは、WebSphere Commerce またはそのコンポーネント製品によって使用されるデフォルトのポート番号を示しています。これらのポートを WebSphere Commerce 以外のアプリケーションには使用しないようにしてください。システム内にファイアウォールが構成されている場合、これらのポートにアクセス可能であることを確認してください。

ポート番号	用途
80	IBM HTTP Server
443	IBM HTTP Server
900	WebSphere Application Server ブートストラップ
1099	WebSphere Commerce 構成マネージャー
2222	ユーザー wasuser としてアクセスする WebSphere Application Server
8000	WebSphere Commerce ツール
8080	WebSphere テスト環境 (VisualAge [®] for Java [™] 用)
8611	Payment Manager
8620	Payment Manager Cassette for SET [™]
9000	WebSphere Application Server Location Server
16999	WebSphere Commerce キャッシュ・デーモン (デフォルト)
50000	DB2 [®] コネクト (デフォルト)
50001	DB2 割り込み (デフォルト)

WebSphere Commerce で使用されるロケール

WebSphere Commerce では、有効な Java ロケールだけが使用されます。使用言語にあった適切なロケールがシステムにインストールされていることを確認してください。また、ロケール関連のすべての環境変数が、WebSphere Commerce でサポートされるロケールを含むように設定されていることを確認してください。次の表は、WebSphere Commerce でサポートされているロケール・コードを示しています。

言語	ロケール・コード	LC_ALL 値
ドイツ語	de_DE	de_DE
英語	en_US	en_US
スペイン語	es_ES	es_ES
フランス語	fr_FR	fr_FR
イタリア語	it_IT	it_IT
日本語	Ja_JP	Ja_JP
韓国語	ko_KR	ko_KR
ブラジル・ポルトガル語	pt_BR	pt_BR
中国語 (簡体字)	zh_CN	zh_CN
中国語 (繁体字)	zh_TW	zh_TW

ロケールの判別には、次のコマンドを使用します。

```
echo $LANG
```

使用しているロケールがサポートされていない場合は、次のコマンドを root ユーザーとして実行し、ロケールのプロパティを変更してください。

```
LANG=xx_XX  
export LANG
```

この xx_XX の部分には、上の表で示されている 4 文字のロケール・コード (大文字小文字の違いも認識される) が入ります。

ユーザー ID、パスワード、および Web アドレスのクイック・リファレンス

WebSphere Commerce 環境で管理するには、さまざまなユーザー ID が必要です。これらのユーザー ID とその必要な権限について、以下のテーブルで説明します。

WebSphere Commerce のユーザー ID に対して、デフォルトのパスワードが識別されません。

ユーザー ID	デフォルト値	注意
構成マネージャーのユーザー ID	デフォルトの構成マネージャーのユーザー ID およびパスワードは、webadmin および webibm です	構成マネージャー・ツールのグラフィカル・インターフェースでは、WebSphere Commerce の構成方法を変更することができます。構成マネージャーへは、WebSphere Commerce マシンから、または WebSphere Commerce と同じネットワーク上にある任意のマシンからアクセスすることができます。
IBM HTTP Server ユーザー ID	該当なし	Web ブラウザーを開いて以下の Web アドレスを入力すると、目的の Web サーバー・ホームページにアクセスできます。 <code>http://host_name</code>

<p>WebSphere Commerce インスタンス管理者</p>	<p>デフォルトのインスタンス管理者のユーザー ID は、 wcsadmin で、デフォルトのパスワードは wcsadmin です。</p> <p>注: wcsadmin ユーザー ID は除去してはならず、常にインスタンス管理者権限を持つようにしてください。</p>	<p>インスタンス管理者のユーザー ID とパスワードは、以下の WebSphere Commerce ツールに適用されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • WebSphere Commerce Accelerator. Windows オペレーティング・システムが稼働するリモート・マシンから WebSphere Commerce Accelerator にアクセスするには、Internet Explorer Web ブラウザーを開き、次の Web アドレスを入力します。 https://host_name:8000/accelerator • WebSphere Commerce 管理コンソール. Windows オペレーティング・システムが稼働するリモート・マシンから、WebSphere Commerce 管理コンソールにアクセスするには、Internet Explorer Web ブラウザーを開き、次の Web アドレスを入力します。 https://host_name:8000/adminconsole • ストア・サービス Web ブラウザーを開いて以下の Web アドレスを入力すると、目的の「ストア・サービス」ページにアクセスできます。 https://host_name:8000/storeservices <p>WebSphere Commerce のユーザー ID とパスワードは以下の規則に従う必要があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> • パスワードの長さは 8 文字以上でなければならない。 • パスワードには 1 桁以上の数字を組み込まなければならない。 • パスワードは、同じ文字を 4 個を超えて使用してはならない。 • パスワードは、同じ文字を 3 回を超えて連続してはならない。
-------------------------------------	--	---

<p>Payment Manager 管理者</p>	<p>Payment Manager をインストールするとき、WebSphere Commerce 管理者 ID wcsadmin には Payment Manager 管理者の役割が自動的に割り当てられます。ログオン・ユーザー ID wcsadmin は削除したり名前変更したりしないでください。また、Payment Manager 統合に関連する WebSphere Commerce 機能が動作しなくなるため、あらかじめ割り当てられている Payment Manager の役割 wcsadmin も変更しないでください。</p>	<p>Payment Manager 管理者の役割によって、ユーザー ID が Payment Manager を制御および管理することが可能になります。</p>
----------------------------	--	---

第 2 章 インストール前の要件

このセクションでは、WebSphere Commerce をインストール前に実行する必要があるステップを説明します。

本書で説明するステップを実行するには、root ユーザーのアクセス権が必要です。

重要

インストールが確実に正しく行われるように、下記のインストール前に実行するステップを完了してください。

知識に関する要件

WebSphere Commerce をインストールおよび構成するには、以下に関する知識が必要です。

- 使用しているオペレーティング・システム
- インターネット
- Web サーバーの操作および保守
- IBM DB2 Universal Database™
- WebSphere Application Server 管理コンソール
- 基本オペレーティング・システムのコマンド

ストアを作成およびカスタマイズするには、以下に関する知識が必要です。

- WebSphere Application Server
- IBM DB2 Universal Database
- HTML および XML
- 構造化照会言語 (SQL)
- Java プログラミング

ストアまたはモールをカスタマイズする方法の詳細については、*WebSphere Commerce プログラマーズ・ガイド* および *WebSphere Commerce Store Developer's Guide* を参照してください。これらの資料は、WebSphere Commerce と WebSphere Commerce Studio に付属しています。

前提条件となるハードウェア

WebSphere Commerce をインストールする前に、以下の最低のハードウェア要件を満たしていることを確認しておかなければなりません。

Pentium® III 733 MHz (実稼働環境では 733 MHz 以上を推奨) を搭載した専用の IBM 互換のパーソナル・コンピュータで、以下の要件を満たしている必要があります。

- プロセッサごとに最低 768 MB のランダム・アクセス・メモリー (RAM)
- 最低 4GB のフリー・ディスク・スペース
- プロセッサごとに最低 1 GB のページング・スペース
- CD-ROM ドライブ
- グラフィックス対応モニター
- TCP/IP プロトコルがサポートするローカル・エリア・ネットワーク (LAN) アダプター。

前提条件となるソフトウェア

WebSphere Commerce をインストールする前に、以下の最低のソフトウェア要件を満たしていることを確認しておかなければなりません。

- システムに Web ブラウザーがインストールされていることを確認してください。
- スタック割り当て量の最低限度が 32768 であることを確認します。現在の限度をチェックするには、コマンド・ウィンドウに以下を入力してください。

```
ulimit -a
```

スタックについて戻された値が 32768 未満の場合、以下のコマンドを実行してこのレベルまで値を増やします。

```
ulimit -s 32768
```

- Red Hat Linux 7.2
- SuSE Linux 7.0、Enterprise Server
- システム上で以下のパッケージが利用できることを確認してください。以下のコマンドを実行して、パッケージの有用性をチェックします。

```
rpm -qa | grep package_name
```

これらのパッケージがインストールされていない場合は、WebSphere Commerce のインストールを続ける前にそれらをインストールしなければなりません。

Red Hat Linux 7.2 の場合:

- pdksh-5.2.14-12
- ncurses4-5.0-2

SuSE Linux 7.0、Enterprise Server の場合:

その他の要件

さらに、WebSphere Commerce のインストールの前に以下を実行してください。

- ご使用のマシン上で Lotus® Notes™ サーバー、あるいはその他のサーバーを実行している場合は、それを停止してください。使用しているマシン上に、現在ポート 80、ポート 443、またはポート 8000 を使用している Web サーバーがあれば、それを使用不可にしてください。
- WebSphere Commerce では IP アドレスとホスト名の両方を使用しているので、ご使用のシステムの IP アドレスはホスト名に解決しなければなりません。IP アドレスを決定するには、コマンド・ウィンドウを開いて以下を入力します。

```
nslookup host_name
```

必要な情報は、正しい IP アドレスからの応答に含まれています。

- Web サーバーのホスト名に下線 (_) が含まれていないことを確認してください。IBM HTTP Server は、下線を含むホスト名のマシンをサポートしません。
- システムに Apache Web サーバーがインストールされている場合は、これをアンインストールしてください。システムに Apache がインストールされているかどうかを判別するには、コマンド・プロンプトから以下のコマンドを実行します。

```
rpm -qa|grep apache
```

システムは、システム上に存在するすべての Apache パッケージをリストします。これらのパッケージをアンインストールするには、リストされている各パッケージごとに次のコマンドを実行します。

```
rpm -e --nodeps package_name
```

ここで、*package_name* の部分には、最初のコマンドの出力で表示されたとおりの名前を入れてください。

第 2 部 WebSphere Commerce のインストール

WebSphere Commerce は、DB2 データベースをサポートしています。本書では、WebSphere Commerce マシンへの DB2 のインストール方法についてのみ説明しています。リモート・マシンへインストールしたい場合は、「WebSphere Commerce インストール・ガイド」を参照してください。他の WebSphere Commerce コンポーネントをインストールするには、その前に、データベースをインストールしておく必要があります。

WebSphere Commerce では、Web サーバーとして IBM HTTP Server だけがサポートされています。Web サーバーは、他の WebSphere Commerce コンポーネントと同じマシンにインストールすることもできますし、リモート・マシンにインストールすることも可能です。本書では、WebSphere Commerce マシンへの IBM HTTP Server のインストール方法についてのみ説明しています。Web サーバーを WebSphere Commerce マシンとは別のマシンにインストールする場合は、「WebSphere Commerce インストール・ガイド」の指示に従ってください。

データベースと Web サーバーをインストールしたなら、WebSphere Application Server、IBM SDK for Java、WebSphere Commerce、および Payment Manager をインストールする必要があります。

- 15 ページの『第 3 章 IBM DB2 ユニバーサル・データベース 7.1.0.60 のインストール』
- 23 ページの『第 4 章 WebSphere Application Server のインストール』
- 31 ページの『第 5 章 WebSphere Commerce 5.4 のインストール』
- 33 ページの『第 6 章 IBM Payment Manager 3.1.2 のインストール』

第 3 章 IBM DB2 ユニバーサル・データベース 7.1.0.60 のインストール

この章では、IBM DB2 ユニバーサル・データベース 7.1.0.60 のインストール方法と WebSphere Application Server のデータベースの作成方法について説明します。この章のステップを実行するには、DB2 ユニバーサル・データベース CD が必要です。

プリインストールのステップ

DB2 ユニバーサル・データベース をインストールする前に、以下を確認してください。

- マシンから旧バージョンの DB2 をアンインストールした場合は、DB2 ファイルがすべて削除されていることを確認してください。何らかの DB2 情報や DB2 関連のファイルがシステムに残っていると、DB2 を正常にインストールできなかつたり、インスタンスを作成できない可能性があります。

インストール手順

DB2 をインストールするには、次のように行います。

1. ユーザー ID `root` としてログインします。
2. マシンの CD-ROM ドライブに CD を挿入してから、DB2 ユニバーサル・データベース CD をマウントします。
3. 端末のウィンドウで以下のコマンドを入力し、CD の DB2 インストール・ディレクトリーに移動します。

```
cd /CDROM_dir
```

`CDROM_dir` は、CD がマウントされているディレクトリーです。

4. DB2 をインストールするには、端末のウィンドウで以下のコマンドを入力して `db2setup` ユーティリティーを開始します。

```
./db2setup
```

注:

- a. `db2setup` ユーティリティーは、`Bourne Again (bash)`、`Bourne`、および `Korn` シェルで稼働します。他のシェルはサポートされていません。
- b. `db2setup` ユーティリティーは、インストール中のエラーを記録するトレース・ログを生成できます。トレース・ログを生成するには、`./db2setup` コマンドの代わりに `./db2setup -d` コマンドを使用します。`./db2setup -d` コマンドは、`/tmp/db2setup.trc` にログを生成します。

5. DB2 インストーラーが始動します。システムにすでに DB2 コンポーネントがインストールされている場合は、「**Install (インストール)**」を選択します。この選択を行うと、db2setup プログラムはシステムをスキャンして、現在の構成に関する情報を調べます。

注: 今回初めて DB2 をインストールする場合は、db2setup プログラムを開始した後、現在のシステム構成に関する情報がスキャンされます。DB2 インストーラーのウィンドウで「**Install (インストール)**」を選択する必要はありません。

6. 次のようにして、選択項目を強調表示して **Enter** を押し、それらを選択します。
 - a. **DB2 UDB エンタープライズ版**
 - b. **Application Development Client**
 - c. DB2 メッセージを英語以外の言語で表示させたい場合は、「**DB2 製品メッセージ**」の横にある「**カスタマイズ**」を選択し、「DB2 メッセージ」ウィンドウをオープンします。使用する言語コードを強調表示にしてスペース・バーを押し、「**OK (了解)**」を強調表示して **Enter** を押します。
 - d. HTML 形式の DB2 資料を英語以外の言語でインストールしたい場合は、「DB2 製品ライブラリー」の横にある「**カスタマイズ**」を強調表示にして **Enter** を押し、「DB2 製品ライブラリー」ウィンドウをオープンします。使用する言語コードを強調表示にしてスペース・バーを押し、「**OK (了解)**」を強調表示にして **Enter** を押します。

選択されているオプションは、アスタリスク (*) によって示されます。

7. 選択ができれば、「**OK (了解)**」を強調表示にして **Enter** を押します。
8. 「DB2 サービスの作成」ウィンドウが表示されます。「DB2 インスタンスの作成」を強調表示にして **Enter** を押します。「DB2 Instance (DB2 インスタンス)」サブウィンドウが表示されます。
9. 以下のようにフィールドを完成させます。

User Name (ユーザー名)

使用したい DB2 インスタンス ID を入力します。(本書では、例としてインスタンス ID *db2inst1* を使用しています。) インスタンス ID は、以下の基準を満たしていなければなりません。

- 長さが 8 文字を超えてはならない。
- 使用できる文字は、A~Z、a~z、0~9、@、#、\$、および _ のみ。
- 最初の文字が下線 (_) であってはならない。
- 大文字、小文字、またはそれらの混合にかかわらず、USERS、ADMINS、GUESTS、PUBLIC、LOCAL のいずれも使用してはならない。
- 大文字、小文字、またはそれらの混合にかかわらず、IBM、SQL、SYS のいずれかで始まるものであってはならない。

Group Name (グループ名)

現在他のどのユーザー ID にも使用していないグループ名を入力します。このグループは、自動的に DB2 インスタンスのシステム管理グループとなり、これに管理者権限が与えられます。

Password (パスワード)

以下の基準を満たすパスワードを入力してください。

- 長さが 8 文字を超えてはならない。
- 使用できる文字は、A～Z、a～z、0～9、@、#、\$、および _ のみ。
- 最初の文字が下線 (_) であってはならない。

Verify Password (確認パスワード)

同じパスワードをもう一度入力してください。

他のすべてのフィールドではデフォルトを受け入れ、「**OK (了解)**」を強調表示にして **Enter** を押します。

10. 以下のステップを実行してください。
 - a. 「Fenced User (分離ユーザー)」ウィンドウが表示されます。すべてのデフォルトを受け入れ、「**OK (了解)**」を強調表示にして **Enter** を押します。
 - b. 通知ウィンドウが表示され、システムが生成したパスワードを使用することが勧められます。「**OK (了解)**」を強調表示にして **Enter** を押します。
 - c. 「DB2 Warehouse Control Database (DB2 ウェアハウス・コントロール・データベース)」ウィンドウが表示されます。「**Do not set up DB2 Warehouse Control Database (DB2 ウェアハウス・コントロール・データベースをセットアップしない)**」を選択し、「**OK (了解)**」を強調表示にして **Enter** を押します。
 - d. 「Create DB2 Services (DB2 サービスの作成)」ウィンドウが表示されます。「**OK (了解)**」を強調表示にして **Enter** を押します。
 - e. 管理サーバーが作成されていないことを示す警告メッセージが出て無視し、「**OK (了解)**」を選択して **Enter** を押します。
11. インストールされるコンポーネントをリストした要約レポートが表示されます。「**Continue (続行)**」を強調表示にして **Enter** を押します。
12. db2setup プログラムは、コンポーネントをインストールし、指定されたグループにインスタンス ID を作成します。ご使用のマシンのプロセッサ処理速度に応じて、この処理には数分を要する場合があります。インストール・プログラムが完了すると、インストールが成功したかどうかを知らせる通知ウィンドウが表示されます。「**OK (了解)**」を強調表示にして **Enter** を押します。
13. 状況レポートを調べて、すべてのコンポーネントが正常にインストールされたこと、および DB2 インスタンス ID が正常に作成されたことを確認します。「**OK (了解)**」を強調表示にして **Enter** を押します。

重要:

db2setup が DB2 インスタンス ID の自動作成に失敗した場合は、次のようにして、手で DB2 インスタンスをセットアップしてください。

- a. 作成したすべての DB2 ユニバーサル・データベースのユーザーおよびグループを除去し、そのホーム・ディレクトリーも除去します。
- b. 次のように入力します。

```
cd /home/  
rm -r db2*
```

すべての DB2 ユニバーサル・データベース・ファイルが削除されたことを確認します。

- c. DB2 ユニバーサル・データベース CD から db2setup を実行します。製品をインストールする代わりに「**インスタンスの作成**」を選択し、上記でまとめたように必要なステップを実行してください。

インストールのログを見ると、DB2 のトライアル・ライセンスがインストールされたことを示すメッセージがあるはずですが、このライセンスは、WebSphere Commerce をインストールすると自動的に置き換えられます。

14. 「DB2 Installer (DB2 インストーラー)」ウィンドウをクローズするには、「**Close (クローズ)**」を強調表示にして **Enter** を押します。
15. 管理サーバーが作成されていないことを示すメッセージが出て無視し、「**OK (了解)**」を強調表示して **Enter** を押します。
16. DB2 インストーラーを終了してもよいかどうかの確認に対して、「**OK (了解)**」を強調表示して **Enter** を押します。
17. cd / と入力してルート・ディレクトリーに移動します。
18. umount *CDROM_dir* と入力して CD をアンマウントします。なお、この *CDROM_dir* の部分には、マウントされている CD のディレクトリーを指定します。
19. DB2 ユニバーサル・データベース CD を取り出します。

DB2 フィックスパックのインストール

データベースを作成する前に、以下のステップに従い、クライアント・マシンとサーバー・マシン両方の DB2 のレベルをアップグレードします。

1. db2inst1 ユーザーに移動し、DB2 を停止します。

```
su - db2inst1  
./home/db2inst1/sqllib/db2profile  
db2 force application all  
db2 terminate  
db2stop  
db2licd end  
exit
```


2. 実行中の DB2 の処理がないことを、以下のコマンドを実行して確認します。

```
ps -ef|grep db2
```

実行中の処理があるときは、kill コマンドを使用してそれらを終了させます。

3. WebSphere Commerce ディスク 2 CD をマウントし、DB2 eFix ディレクトリーに移動します。

```
su - root
cd /CDROM_dir/DB2_PATCH
```

4. フィックスパックをインストールします。

```
cp FP6_U481413.tar /tmp
cd /tmp
tar -xvf FP6_U481413.tar
cd delta_install
./installFixPak
```

5. DB2 インスタンスを更新します。

```
/usr/IBMDB2/V7.1/instance/db2iupdt db2inst1
```

6. フィックスパックをインストールする前に作成された WebSphere Application Server か WebSphere Commerce データベースを使用する場合には、既存のデータベースそれぞれのファイルをバインドしなければなりません。

```
su - db2inst1
db2start
cd /usr/IBMDB2/V7.1/bnd
db2 terminate
db2 CONNECT TO db_namedb2 BIND @db2ubind.1st BLOCKING ALL GRANT PUBLIC
db2 BIND @db2cli.1st BLOCKING ALL GRANT PUBLIC
db2 terminate
```

7. DB2 を再始動します。

```
su - db2inst1
db2start
```

データベース・マネージャーで jdbc2

DB2 でデータベースを作成する前に、DB2 サーバー・マシンで以下のステップを実行してください。

1. db2inst1 ユーザーに移動します。

```
su - db2inst1
```

2. 次のそれぞれの最下部に、以下の行を追加します。

- Red Hat Linux の場合: the db2inst1 /home/db2inst1/.bashrc
- SuSE Linux、Enterprise Server の場合: the db2inst1 /home/db2inst1/.profile

```
./sqllib/java12/usejdbc2
EXTSHM=ON
export EXTSHM
db2set DB2ENVLIST=EXTSHM
```

3. ファイルを保管します。
4. `db2stop` を入力します。
5. `db2start` を入力します。
6. `exit` を入力します。

WebSphere Application Server データベースの作成

WebSphere Application Server をインストールする前に、WebSphere Application Server データベースを作成しなければなりません。DB2 サーバーが WebSphere Commerce と同じマシンにあるか、あるいは DB2 とは別のリモート側に WebSphere Commerce をインストールするつもりなのかに応じて、以下の適切なセクションのステップに従ってください。

データベースをローカルに作成

データベースを作成するには、以下のステップを実行してください。

1. 端末ウィンドウで、以下を入力します。

```
su - db2inst1
db2 create database WAS
```

ここで、*WAS* は、作成中の WebSphere Application Server データベースの名前です。

2. **db2 update db config** コマンドを実行して、アプリケーションのヒープ・サイズを設定するには、以下のようにします。

```
db2 update db config for WAS using applheapsz 512
```

3. データベースの作成が終了したら、以下を入力して、DB2 を停止してから開始します。

```
db2stop
db2start
```

4. 以下を入力して、TCP/IP サービス名を指定します。

```
db2 get dbm cfg | grep -i svc
```

5. 以下のように入力して、WebSphere Application Server データベースを、まるでリモート・データベースのようにカタログ化します。

```
db2 catalog tcpip node node_name remote full_host_name server
TCP/IP_service_name
db2 catalog database WAS as WASLOOP at node node_name
```

ここで、*node_name* は、このノードに割り振っている名前、*full_host_name* はデータベース・サーバーの完全修飾ホスト名です。ここではコマンドを読みやすいように行を分けて示していますが、それぞれを 1 行に入力するようにしてください。

WebSphere Application Server データベースへの接続の検査

WebSphere Application Server データベースへの接続を検査するには、DB2 サーバー・マシンで以下のステップを実行してください。

1. DB2 インスタンス所有者 `db2inst1` としてログインされていることを確認します。
2. `wasloop` という名前のデータベースに、以下のように `db2` 接続コマンドを実行して接続します。

```
db2 connect to WASLOOP user db2inst1 using db2inst1_password
```

3. 正しい出力は、以下のようになります。

```
Database Connection Information
Database server          = DB2/Linux 7.2.4
SQL authorization ID    = DB2INST1
Local database alias    = WASLOOP
```

4. DB2 インスタンス所有者として、データベースから切断し、ログアウトするには、コマンド・プロンプトで以下のように入力します。

```
db2 connect reset
exit
```

次のステップ

これで、IBM DB2 ユニバーサル・データベース 7.1.0.60 がインストールされました。13 ページの『第 2 部 WebSphere Commerce のインストール』に進んで、WebSphere Application Server、Payment Manager および WebSphere Commerce をインストールしてください。

第 4 章 WebSphere Application Server のインストール

章のチェックリスト

この章のステップを正常に完了できるようにするため、以下の要件に適合していることを確認してください。

1. この章のステップを開始する前に、DB2 ユニバーサル・データベース のインストール、データベースの作成およびカタログ化が行われていなければなりません。

同じマシンへの WebSphere Application Server と IBM HTTP Server のインストール

Web サーバーと同一のマシンに WebSphere Application Server をインストールするには、以下のようにします。

1. ユーザー ID `root` でログインしていることを確認します。
2. マシンの CD-ROM ドライブに CD を挿入して WebSphere Application Server, Advanced Edition CD をマウントします。これを行うには、端末ウィンドウで以下のコマンドを入力します。

```
mount CDROM_dir
```

CDROM_dir は、CD ファイル・システムの割り振りの際に、マウント・ポイントとして指定したディレクトリーです。

3. コマンド行で以下のように入力して、CD-ROM 上のインストール・ディレクトリーに切り替えます。

```
cd /CDROM_dir/
```

CDROM_dir は、CD-ROM がマウントされているディレクトリーです。

4. 以下のコマンドを入力して、インストール・プログラムを開始します。

```
./install.sh
```

5. 「IBM WebSphere Application Server セットアップ・プログラムによるこそ」ダイアログ・ボックスがオープンします。「次へ」をクリックして続行します。
6. 「前提条件の検査」ウィンドウがオープンします。WebSphere Application Server をインストールするのに正しい前提条件であるかを確認してから、「OK」をクリックします。
7. 「インストール・オプション」ダイアログ・ボックスがオープンします。「カスタム・インストール」を選択して、「次へ」をクリックします。

8. 「アプリケーション・サーバー・コンポーネントの選択」パネルが表示されます。以下のパッケージを選択します。

- サーバー
- 管理
- サンプル
- アプリケーション・アセンブリーとデプロイメント・ツール
- IBM HTTP Server 1.3.19
- Web サーバー・プラグイン

すべてのパッケージの選択が終了したら、「次へ」をクリックします。

9. 「WebSphere プラグイン」パネルが表示されます。ご使用の IBM HTTP Server に合ったプラグインを選択して、「次へ」をクリックします。
10. 「データベース・オプション」ダイアログが表示されます。以下の指示セットを実行します。
- a. 「データベースのタイプ」フィールドで、プルダウン・メニューから DB2 を選択します。
 - b. リモート DB が選択されていないことを確認します。
 - c. 「データベース名 (データベース SID)」フィールドで、WebSphere Application Server データベースの名前を入力します。例：WASLOOP
 - d. 「DB ホーム」フィールドで、DB2 インスタンス所有者のホーム・ディレクトリーの絶対パス名 `/home/db2inst1` を入力するか、「参照」ボタンを使用して、ホーム・ディレクトリーの絶対パス名を指定します。
 - e. 「DB URL」、「サーバー名」、および「ポート番号」フィールドは編集できません。
 - f. 「データベース・ユーザー ID」フィールドで、データベース・インスタンス所有者の名前 `db2inst1` を入力します。
 - g. 「データベース・パスワード」フィールドで、データベース・インスタンス所有者の現在のパスワードを入力します。
 - h. 「次へ」をクリックして続行します。
11. 「宛先ディレクトリーの選択」ダイアログがオープンします。IBM HTTP Server を使用する場合は、宛先ディレクトリーを変更できません。「次へ」をクリックして続行します。
12. 「選択済みインストール・オプション」ダイアログ・ボックスがオープンします。情報が正しいことを検査し、「インストール」をクリックしてインストールを完了します。
13. 「構成ファイルの場所」ダイアログ・ボックスがオープンし、指定された Web サーバー構成ファイルの絶対パス名の入力を求めるプロンプトが出されます。
- `/opt/IBMHTTPServer/conf/httpd.conf`

重要:

この情報を入力する前に、もう 1 つ別のコマンド・ウィンドウをオープンし、以下のコマンドを入力してください。

```
cd /opt/IBMHTTPServer/conf
mv httpd.conf httpd.conf.orig
cp httpd.conf.sample httpd.conf
```

「Next (次へ)」をクリックします。

- 「セットアップの完了」ダイアログ・ボックスがオープンします。README ファイルを参照したい場合は、「はい、README ファイルを表示します」が選択されていることを確認して、「終了」をクリックします。すると、デフォルトのブラウザ・ウィンドウに README ファイルが表示されます。
- 以下のように入力して、CD をアンマウントします。

```
cd /
umount CDROM_dir
```

CDROM_dir は、マウントされる CD として指定したディレクトリーです。

- WebSphere Application Server, Advanced Edition CD を取り出します。
- 以下のコマンドを実行して、IBM HTTP Server を再始動します。

```
/opt/IBMHTTPServer/bin/apachectl restart
```
- ブラウザを始動してローカル・マシンの名前を URL で入力します。IBM HTTP Server Web ページでサーバーが適切に、インストールおよび構成されていることを確認します。

IBM HTTP Server Administrator のパスワードを作成する

管理サーバーは、すべての構成フォームを含むディレクトリーに、認証が使用可能な状態でインストールされます。これは、インストール後に管理サーバーでページのサービスを受けるためには、ユーザー ID およびパスワードを入力しなければならないことを意味します。この処置は、IBM HTTP Server および管理サーバーが正常にインストールされた直後の、IBM HTTP Server 構成ファイルの無許可アクセスからの保護を目的として行われます。インストール時にはパスワード・ファイル (*admin.passwd*) は「空」なので、管理サーバー・パスワード・ファイル (*admin.passwd*) にユーザー ID とパスワードを提供するまでは、管理サーバーから IBM HTTP Server 構成ページにアクセスすることができません。

IBM HTTP Server 1.3.19.1 のユーザー ID およびパスワードを作成するには、以下のステップを実行します。

- `cd/opt/IBMHTTPServer/bin` と入力します。
- `./htpasswd -m ../conf/admin.passwd user_ID` と入力します。

3. パスワードを入力します。その後、そのパスワードを確認するためのプロンプトが表示されます。

これは管理サーバー構成 GUI へのアクセスが許可されるユーザー ID とパスワードになります。ユーザー ID は、管理サーバーにアクセスするためには固有のものでなければなりません。

IBM HTTP Server 管理サーバーのセットアップ

ユーザー ID およびグループを作成し、さまざまな構成ファイルの許可を変更する、IBM HTTP Server のセットアップ・スクリプトを実行しなければなりません。IBM HTTP Server 管理サーバーをセットアップするには、以下のステップを実行します。

1. `cd /opt/IBMHTTPServer/bin` と入力して、HTTP サーバー・ディレクトリーを変更します。
2. `./setupadm` を実行します。
3. プロンプトに以下のように応答します。
 - a. 管理サーバーを実行するためのユーザー ID を入力します (ユーザー ID は System Administration ツールを使用して作成されます)。ユーザー ID (ログオン ID と同じものは不可) を入力します。 **Enter** をクリックします。
 - b. 管理サーバーを実行するためのグループ名を入力します (グループは System Administration ツールを使用して作成されます)。グループ名を入力して、**Enter** をクリックします。
 - c. 許可の変更が必要なファイルを含むディレクトリーを指定するためのプロンプトが表示されます。デフォルトは `/opt/IBMHTTPServer/conf` です。デフォルトを受け入れるか、または IBM HTTP Server 構成ファイルへのパスを入力します。
 - d. 変更の実行を確認するためのプロンプトが表示されるか (1 を入力)、変更せずに終了します (2 を入力)。変更するには、1 を入力します。
 - e. 管理サーバー構成ファイルを更新するためのプロンプトが表示されます。継続 (1 を入力) または終了 (2 を入力) します。更新するには、1 を入力します。
 - f. 管理サーバーおよび IBM HTTP Server を、英語以外の言語で実行したいかを尋ねられる場合もあります。英語以外の言語を使用する場合は 1 を入力し、終了する場合は 2 を入力します。英語以外の言語の使用を選択すると、その言語の選択を確認するためのプロンプトが表示されます。
4. 更新が実行されたら、`setupadm` プログラムを終了してかまいません。

WebSphere Application Server フィックスパックと eFixes のインストール

フィックスパックまたは eFixes をインストールする前に、以下を実行する必要があります。

- WebSphere Application Server が停止していることを確認します。WebSphere Application Server を停止するには、以下のようになります。

1. 端末ウィンドウで次のように入力して、WebSphere Application Server 管理コンソールを始動します。

```
export DISPLAY=fully_qualified_host_name:0.0
cd /opt/WebSphere/AppServer/bin
./adminclient.sh
```

2. WebSphere Application Server 管理コンソール内で、短いホスト名を持つノードを選択します。
3. 「stop (停止)」ボタンをクリックします。次のような警告メッセージが表示されず。

You are trying to stop the node that the console is connected to. This will cause the console to exit after the node is stopped. Do you want to continue?

「**Yes (はい)**」をクリックして続行します。

4. WebSphere Application Server 管理コンソールが停止した後に、端末ウィンドウで次のコマンドを発行して、WebSphere Application Server に関連するプロセスがすべて停止していることを確認します。

```
ps -ef | grep startupServer
```

5. このコマンドによって、いくつかの Java プロセスが戻されると、kill コマンドを発行してそれらを停止します。

- IBM HTTP Server が停止していることを確認します。

```
cd /opt/IBMHTTPServer/bin
./apachectl stop
```

- 必要に応じて、WebSphere Commerce ディスク 2 CD をマウントします。これを行うには、次のように入力します。

```
mount CDROM_dir
```

CDROM_dir は、マウントされる CD として指定したいディレクトリーです。

以下のステップを実行して、WebSphere Application Server フィックスパックをインストールします。

1. CD の Software_Patches/WAS_PTF2 ディレクトリーに移動し、以下のコマンドを実行します。

```
cp was40_ae_ptf_2_linux.intel.tar /tmp
cd /tmp
tar -xvf was40_ae_ptf_2_linux.intel.tar
./install.sh
```

2. WebSphere Application Server ルート・ディレクトリーを求めるプロンプトが表示されたら、/opt/WebSphere/AppServer を入力します。その他の質問すべてに「はい」と応答します。

WebSphere Application Server eFixes をインストールするには、以下のステップを実行してください。

1. WebSphere Commerce ディスク 2 CD の /Software_Patches/WAS_efixes ディレクトリに移動します。
2. 以下のコマンドを使用して、それぞれの eFix をインストールします。

```
cp eFix_jar_file_name.jar /tmp
cd /tmp
/opt/WebSphere/AppServer/java/bin/java -jar eFix_jar_file_name.jar
-target /opt/WebSphere/AppServer
```

eFix_jar_file_name.jar は、各 .jar ファイルの名前です。

このスクリプトによって、エラーなしでソフトウェアがアップグレードされたかどうかを検査するには、以下のエラー・ログをチェックしてください。

- /tmp/WC54efixunix.log
- /opt/WebSphere/AppServer/eFix/PQ54291/Extractor.log
- /opt/WebSphere/AppServer/eFix/PQ57814/Extractor.Log
- /opt/WebSphere/AppServer/eFix/PQ58038/Extractor.Log
- /opt/WebSphere/AppServer/eFix/PQ58443/Extractor.Log

インストールのテスト

このセクションでは、WebSphere Application Server システムのインストールおよび構成のテスト方法を説明します。これらの指示は、サポートされている Web サーバー、データベース、および WebSphere Application Server コンポーネントがインストール済みであると仮定しています。

WebSphere Application Server インストールをテストするには、以下のステップを実行してください。

1. スーパーユーザー (root) の特権でマシンにログインしていることを確認します。
2. 以下の startupServer スクリプトを実行して、WebSphere 管理サーバーを始動します。

```
cd /opt/WebSphere/AppServer/bin
./startupServer.sh &
```

3. /opt/WebSphere/AppServer/logs ディレクトリで見つけた tracefile という名前のファイルをチェックして、管理サーバーが正常に始動したことを確認してください。サーバーが正常に始動したら、このファイルにメッセージ Server_adminServer open for e-business が表示されます。
4. 以下のように adminclient スクリプトを実行して、管理コンソールを始動します。

```
cd /opt/WebSphere/AppServer/bin
./adminclient.sh &
```

5. コンソールがメッセージ Console Ready を表示したら、以下のステップを実行し、アプリケーション・サーバーを管理します。

- a. 管理コンソールがオープンすると、ツリー・ビューが表示されます。ビューを展開するには、「**WebSphere 管理ドメイン**」項目の隣の正符号（「+」）をクリックします。
- b. 「**ノード**」項目のビューを展開します。
- c. ホスト・マシン名を確認して、その項目のビューを展開します。
- d. 「**アプリケーション・サーバー**」項目のビューを展開します。
- e. 「**デフォルト・サーバー**」項目を選択し、ツールバーに配置された「**始動**」アイコンをクリックします。情報ウィンドウがオープンし、サーバーが始動したことを示します。「**OK**」をクリックして情報ウィンドウをクローズします。

WebSphere Application Server AdminServer を再始動すると、デフォルト・サーバーは以前の状態に戻ります。停止していた場合は停止したままですが、稼働中だった場合は再始動されます。

6. 別のマシンに Web サーバーがインストールされると、WebSphere Application Server マシンから Web サーバー・マシンに、`/opt/WebSphere/AppServer/config/plugin-cfg.xml` がコピーされます。

重要:

デフォルト・サーバーは、テストだけを目的として使用されます。テスト後に、サーバーを停止または除去できます。実動システムでデフォルト・サーバーは絶対に稼働状態のままにしないでください。サイトのセキュリティを危険にさらす原因となる可能性があります。

7. Web サーバーが稼働していることを確認してください。Web サーバーが稼働していない場合は、それを始動します。
8. ブラウザーを開始して、スヌープ・サーブレット (デフォルトでインストールされるサンプル・サーブレット) の URL を以下のように入力します。

```
http://machine_name/servlet/snoop
```

`/servlet/snoop` に関する情報が表示されます。

次のステップ

これで WebSphere Application Server がインストールできました。31 ページの『第 5 章 WebSphere Commerce 5.4 のインストール』のステップに従って WebSphere Commerce をインストールすることができます。

第 5 章 WebSphere Commerce 5.4 のインストール

この章では、WebSphere Commerce 5.4 のインストール方法について説明します。この章のステップを実行するには、WebSphere Commerce ディスク 1 CD が必要です。

WebSphere Commerce 5.4 をインストールする前に、Web サーバー、データベース、IBM SDK for Java、および WebSphere Application Server がインストール済みであることを確認してください。

WebSphere Commerce をインストールする前に、9 ページの『第 2 章 インストール前の要件』で説明されているすべての前提条件に適合していることを確認してください。

インストール手順

WebSphere Commerce 5.4 をインストールするには、次のように行います。

1. ユーザー ID root としてログオンします。
2. 必要であれば、WebSphere Commerce ディスク 1 CD をマウントします。これを行うには、次のように入力します。

```
mount CDROM_dir
```

CDROM_dir は、マウントされる CD として指定したいディレクトリーです。

3. DB2 サーバーが開始済みであることを確認してください。DB2 の開始については、71 ページの『DB2 ユニバーサル・データベースの開始と停止』を参照してください。
4. WebSphere Application Server を開始しなければなりません。69 ページの『WebSphere Application Server の開始と停止』を参照してください。
5. コマンド行で次のように入力して、CD に切り替えます。

```
cd /CDROM_dir
```

CDROM_dir は、CD がマウントされているディレクトリーです。

6. コマンド行から、次のように入力します。

```
./install.sh
```
7. インストール・ウィンドウが開いたら、「次へ」をクリックしてインストールを続行します。
8. ライセンス契約が表示されたら、この契約を受け入れ、「次へ」をクリックします。
9. WebSphere Commerce のインストール位置とサイズが表示されます。「次へ」をクリックしてインストールを開始します。

10. インストールが完了したら、「終了」をクリックします。
11. 以下のように入力して、CD をアンマウントします。

```
cd /  
umount CDROM_dir
```

CDROM_dir は、CD がマウントされているディレクトリーです。

12. WebSphere Commerce ディスク 1 CD を取り出します。

次のステップ

これで WebSphere Commerce 5.4 がインストールされたので、33 ページの『第 6 章 IBM Payment Manager 3.1.2 のインストール』で説明されているように、IBM Payment Manager 3.1.2 をインストールして続行できる状態になりました。

第 6 章 IBM Payment Manager 3.1.2 のインストール

この章では、ご使用のローカル WebSphere Commerce マシンに、Payment Manager をインストールおよび構成する方法を説明します。この章のステップを実行するには、IBM Payment Manager 3.1.2 CD が必要です。

Payment Manager の構成方法に関する詳細は、以下を参照してください。

- Payment Manager CD に入っている、「*IBM WebSphere Payment Manager for Multiplatforms インストール・ガイド バージョン 3.1*」。
- Payment Manager CD に入っている、「*IBM WebSphere Payment Manager for Multiplatforms 管理者のガイド バージョン 3.1*」。
- WebSphere Commerce オンライン・ヘルプ。WebSphere Commerce のインストールを終了したら、Payment Manager を WebSphere Commerce ストアと一緒に動作できるように構成するために必要なすべての情報を検索できます。

インストールの前提条件

1. 最新の README ファイル `readme.framework.html` をお読みください。README ファイルには、Payment Manager の Web サイト <http://www.ibm.com/software/websphere/paymgr/support/index.html> の関連資料のリンクからアクセスすることができます。また、Payment Manager CD-ROM にも入っています。
2. データベース・インスタンス所有者に変更し、DB2 を開始します。

```
su - db2inst1
db2start
```
3. Payment Manager 用のデータベースを作成します (たとえば、`payman`)。

```
db2 create db payman
```

Payment Manager のインストール時には、このデータベースが稼働していなければなりません。DB2 コマンド・ウィンドウで以下のように入力して、このデータベースのアプリケーション・ヒープ・サイズが少なくとも 256 であることを確認します。

```
db2 update db cfg for payman using APPLHEAPSZ 256
```

4. データベースの作成が終了したら、以下のようにして DB2 および WebSphere Application Server を開始します。
 - a. DB2 サーバーを停止して再始動します。

```
su - db2inst1
db2stop
db2start
exit
```

- b. WebSphere Application Server を開始します。

```
cd /opt/WebSphere/AppServer/bin
./startupServer.sh
```

5. インストール時に WebSphere Application Server 管理サーバーが稼働していることを確認してください。また、WebSphere Application Server で WebSphere Payment Manager という名前のアプリケーション・サーバーが他の目的で構成されていないことを確認してください。他の目的で構成されている場合は、これを名前変更するか、または削除してください。

Payment Manager のインストール

IBM Payment Manager 3.1.2 のインストールは、次のように行います。

1. ユーザー ID `root` としてログインします。
2. 必要であれば、IBM Payment Manager 3.1.2 CD をマウントします。これを行うには、次のように入力します。

```
mount CDROM_dir
```

CDROM_dir は、マウントする CD として指定したいディレクトリーです。

3. `Install` コマンドを実行して、Payment Manager インストール・プログラムを立ち上げます。
`./Install`
4. 「Payment Manager Install (Payment Manager のインストール)」画面で、「**Next (次へ)**」をクリックします。
5. ライセンス契約を読み、これに合意したら、この契約を受け入れます。
6. デフォルトの宛先ディレクトリーを受け入れるか、あるいは他のディレクトリーを入力します。
7. インストール・プログラムで WebSphere Application Server が使用している IBM SDK for Java を判別できない場合には、IBM SDK for Java ディレクトリーの位置を入力するように求められます。表示される位置が正しい場合には、「**次へ**」をクリックします。正しくない場合には、正しい位置を入力し、「**Next (次へ)**」をクリックします。
8. Payment Manager で使用するデータベースを、IBM ユニバーサル・データベースのいずれかから選択します。
9. 使用する JDBC™ の情報を入力します。DB2 を使用しているので、インストール・プログラムは自動的に、JDBC ドライバー情報を検索します。インストール・プログラムが JDBC ドライバー情報を検出したら、適切なフィールドに DB2 インスタンス名を入力し (デフォルトは `db2inst1`)、「**次へ**」をクリックします。

10. 「Payment Manager Database アクセス情報」画面に、適切な値を入力します。
 - データベース所有者のユーザー ID (デフォルトは db2inst1)
 - 管理者のユーザー ID (デフォルトは db2inst1)
 - 管理者のパスワード
 - Payment Manager データベース名 (たとえば、payman)「Next (次へ)」をクリックします。
 11. 「Payment Manager WebSphere の構成情報」画面で、デフォルト・ノード名が使用するマシンに適切である場合にはこれを受け入れ、不適切な場合は必要に応じてノード名を入力してください。ノード名は、WebSphere Application Server 管理コンソールでリストされている、使用しているマシンのノード名と同じでなければなりません。「Next (次へ)」をクリックします。
 12. 「Installation Summary (インストールの要約)」画面で、選択されたパラメーターを検討します。「Next (次へ)」をクリックしてインストールを続行します。
- 注: インストールの間に、進行状況バーが停止しているように見えることがあります。継続中のインストールを停止しないでください。システム・リソースが空いたら、進行状況バーは動きを再開します。
13. README ファイルを参照するかどうか尋ねられます。チェック・ボックスを選択し、「次へ」をクリックします。
 14. 以下を入力して、CD をアンマウントします。

```
cd /  
umount CDROM_dir
```

CDROM_dir は、マウントされる CD として指定したディレクトリーです。

15. IBM Payment Manager 3.1.2 CD を取り出します。

CustomOffline および OfflineCard は Payment Manager と一緒に自動的にインストールされます。Payment Manager は WebSphere Commerce と同じマシンにインストールされるので、OfflineCard は自動的に構成されます。これらのカセットはテスト用に使用できますが、オンライン・トランザクションを処理することはできません。

Payment Manager 管理者の役割

Payment Manager をインストールするとき、WebSphere Commerce 管理者 ID wcsadmin には Payment Manager 管理者の役割が自動的に割り当てられます。Payment Manager 管理者の役割によって、この ID が Payment Manager を制御および管理することが可能になります。

注:

1. ログオン・ユーザー ID wcsadmin を削除または名前変更しないでください。また、wcsadmin に事前に割り当てられた Payment Manager 役割も変更しないでください。

これを削除または変更すると、Payment Manager 統合に関連する WebSphere Commerce の機能の一部を停止させることになります。

2. WebSphere Commerce 管理者に Payment Manager 役割を割り当て、その後この管理者のログオン・ユーザー ID を削除または名前変更することになった場合には、これを削除あるいは名前変更する前に管理者の Payment Manager 役割を除去しなければなりません。

重要

Payment Manager は、以下に示す他の 2 つの管理 ID に、Payment Manager 管理者役割を事前に割り当てています。

- nadmin
- admin

ユーザーが意図せずこの Payment Manager 管理者役割を取得してしまうことを防ぐために、以下を行うことができます。

- WebSphere Commerce 管理コンソールを使用して、上記の管理 ID を WebSphere Commerce に作成します。
- Payment Manager ユーザー・インターフェースで、「ユーザー」を選択し、これら 2 つの ID から Payment Manager 管理者役割を除去します。

Payment Manager マシンの構成

「WebSphere Commerce インストール・ガイド」に記載されている必要なステップすべてを完了して、WebSphere Commerce インスタンスを正常に作成したら、「*IBM WebSphere Payment Manager 管理者のガイド*」の『はじめに』の章を参照して、ご使用の Payment Manager マシンを構成することができます。このセクションでは、以下のプロセスについて説明します。

- Payment Manager ユーザー・インターフェースの開始
- Payment Manager マーチャントの作成およびカセットの許可
- ユーザー役割の割り当て
- アカウントの作成
- 決済処理の管理

Payment Manager ユーザー・インターフェースにログオンする前に、WebSphere Commerce が実行しており、Payment Manager エンジンが始動されていることを確認してください。詳細については、71 ページの『Payment Manager の開始と停止』を参照してください。

次のステップ

これで IBM Payment Manager 3.1.2 がインストールされました。39 ページの『第 3 部 WebSphere Commerce インスタンスの構成』の説明に従って、WebSphere Commerce インスタンスを構成できる状態になりました。

第 3 部 WebSphere Commerce インスタンスの構成

必須ソフトウェアや使用したいオプションのソフトウェア・パッケージをすべてインストールし終えたなら、 WebSphere Commerce インスタンスを作成できます。

第 6 部には、次のような章があります。

- 41 ページの『第 7 章 構成前のステップ』
- 43 ページの『第 8 章 構成マネージャーでのインスタンスの作成』
- 53 ページの『第 9 章 構成後のステップ』

第 7 章 構成前のステップ

この章には、WebSphere Commerce インスタンスを構成する前に完了しておく必要のあるタスクのリストを記載します。以下のリストから、適切なセクションを完成させてください。

- wcpinstall.sh スクリプトを実行する
- WebSphere Application Server を開始する (すべてのユーザー)

インストール後スクリプトの実行

WebSphere Commerce と必要なすべてのコンポーネントをインストールした後、インストール後スクリプトを実行する必要があります。これによって、ユーザー ID wasuser が作成され、ユーザーは非 root ユーザーとして、WebSphere Application Server、Payment Manager、および WebSphere Commerce を実行できるようになります。このスクリプトを実行するには、以下のステップを完了してください。

1. WebSphere Application Server が停止していること、およびご使用の Web サーバーに関連したすべてのプロセスが停止していることを確認します。
2. DB2 サービスが停止していることを確認します。
3. /opt/WebSphere/CommerceServer/bin に移動します。
`cd /opt/WebSphere/CommerceServer/bin`
4. ./wcb.sh と入力します。
5. スクリーン内のプロンプトに従い、非 root ユーザーとして実行したいかどうかを尋ねられたら、必ず yes を選択するようにしてください。

注:

- a. 新規ユーザーを作成するのではなく、既存ユーザーを使用することにした場合は、このユーザーのホーム・ディレクトリーは /home でなければなりません。
- b. ./wcb.sh スクリプトによって示される、デフォルトのグループ名およびユーザー名、およびデフォルトのポート番号を受け入れることを強くお勧めします。別の名前およびポート番号を選択する場合は、本資料全体を通して、それらの名前を使用するよう注意してください。
- c. グループ名またはユーザー名は、以下のガイドラインに合致するようにしてください。
 - 8 文字を超えない
 - 特殊文字を使用しない (英数字のみ)
 - すべて小文字を使用する

このスクリプトの実行後は、特定のツールを立ち上げるときや、特定のアプリケーションを開始および停止するときに、このスクリプトで指定したポート番号を指定する必要があります。このことについての詳細は、本書でこれらのタスクについて説明するときに扱います。

WebSphere Application Server の開始

WebSphere Application Server を開始するには、41 ページの『インストール後スクリプトの実行』で作成したユーザー ID `wasuser` としてログインしているときに以下を入力して、次のように行います。

1. データベース・サーバーが実行していることを確認してください。
2. Web サーバーが実行していることを確認してください。
3. 端末ウィンドウで以下のコマンドを入力します。

```
su - wasuser
DISPLAY=fully_qualified_host_name :0.0
cd /opt/WebSphere/AppServer/bin
./startupServer.sh &
```

次のステップ

この章に示された必要なすべてのステップを完了した後、以下の章で示されたステップを完了することによって、構成マネージャーを使用してインスタンスを作成することができます。

- 43 ページの『第 8 章 構成マネージャーでのインスタンスの作成』

第 8 章 構成マネージャーでのインスタンスの作成

この章では、構成マネージャーを使用して基本インスタンスを作成する方法について説明します。1 ページの『第 1 部 WebSphere Commerce のインストール準備』と 13 ページの『第 2 部 WebSphere Commerce のインストール』のステップを完了していないと、インスタンスを作成することはできません。

注: 単一の WebSphere Commerce Server は、コマース・データベース、EJB コンテナ、および 1 つまたは複数のストアに対するクライアント要求にサービスを提供するサーブレット・エンジンから構成されます。WebSphere Commerce の構成マネージャーでは、それぞれの WebSphere Commerce インスタンスはインスタンス・ツリーの個別のルート・カテゴリとして現れます。WebSphere Application Server のトポロジー・ビューでは、WebSphere Commerce インスタンスはノード・エントリーの下に個別の WebSphere Commerce アプリケーション・サーバーとして現れます。拡張構成、およびこの章で説明されていないフィールドを完了する方法については、「WebSphere Commerce インストール・ガイド」を参照してください。

章のチェックリスト

- DB2 サーバーが実行していることを確認してください。
- IBM HTTP Server が実行していることを確認してください。

構成マネージャーの立ち上げ

構成マネージャーを開始するには、以下のステップを完了してください。

1. 端末ウィンドウを開きます。
2. 41 ページの『インストール後スクリプトの実行』で作成した WebSphere Application Server ユーザーとしてログオンしていることを確認します。
`su - wasuser`
3. WebSphere Commerce マシンで作業している場合であっても、ご使用のディスプレイをエクスポートしてください。

```
export DISPLAY=fully_qualified_host_name:0.0
```

ここで、*fully_qualified_host_name* は、構成マネージャーにアクセスするために使用するマシンのホスト名です。ご使用のシステムから `Can not open DISPLAY=` という応答があった場合は、WebSphere Commerce マシンで以下のコマンドを実行します。

```
xhost +host_name
```

ここで、*host_name* は、構成マネージャーへのアクセスを行うマシンの完全修飾ホスト名です。

4. 次のコマンドを発行します。

```
cd /opt/WebSphere/CommerceServer/bin
./config_server.sh
```

注:

- a. `config_server.sh` コマンドを入力した端末ウィンドウをクローズしないでください。クローズすると、構成マネージャー・サーバーが停止します。
 - b. 構成マネージャー・サーバーはバックグラウンド・プロセスとして実行しないでください。これにはセキュリティー上のリスクがある可能性があります。
5. メッセージ、Registry created. CMServer bound in registry. が出されるのを待ちます。
 6. 別の端末ウィンドウを開きます。
 7. 41 ページの『インストール後スクリプトの実行』で作成した WebSphere Application Server ユーザーとしてログオンしていることを確認します。

```
su - wasuser
```
 8. WebSphere Commerce マシンで作業している場合であっても、ご使用のディスプレイをエクスポートしてください。

```
export DISPLAY=fully_qualified_hostname:0.0
```
 9. 次のコマンドを発行します。

```
cd /opt/WebSphere/CommerceServer/bin
./config_client.sh &
```
 10. ウィンドウが表示され、構成マネージャーのユーザー ID およびパスワードを入力するようにプロンプトが出されます。デフォルトの 構成マネージャー・ユーザー ID は `webadmin` で、デフォルトのパスワードは `webibm` です。
 11. 初めてログインする時は、パスワードの変更を求められます。

インスタンス作成ウィザード

インスタンスを作成するには、WebSphere Commerce 構成マネージャーで次のようにします。

1. ホスト名を展開します。
2. 「インスタンス・リスト」を右マウス・ボタンでクリックします。
3. 表示されるポップアップ・メニューから、「インスタンスの作成」を選択します。
4. 「インスタンス作成」ウィザードが開きます。以下のパネルの各フィールドを完成させてください。アスタリスク (**) の付いたフィールドは、インスタンス作成のための必須フィールドです。

インスタンス

Instance name (インスタンス名)

インスタンスに使用する名前です。デフォルト名は `demo` です。

Instance's root path (インスタンスのルート・パス)

WebSphere Commerce インスタンスに関連するすべてのファイルを保管するパスを入力します。デフォルト・パスは、
`/opt/WebSphere/CommerceServer/instances/instance_name` です。

マーチャント鍵

これは、構成マネージャーが暗号化鍵として使用する 16 桁の 16 進数です。「マーチャント鍵」には、少なくとも 1 つの英数字 (a ~ f) と、少なくとも 1 つの数字 (0 ~ 9) を使用します。また英数字は小文字で入力する必要があります。1 行に 5 回以上同じ文字を入力することはできません。ストアを作成した後、この鍵を変更してはなりません。入力する鍵は、自分のサイト、特に実動サーバーを保護するのに十分なものにしてください。

PDI encrypt (PDI 暗号化)

ORDPAYINFO および ORDPAYMTHD テーブル内に示された情報を暗号化するように指定する場合は、このチェック・ボックスをチェックします。

PVC header enabled (使用可能な PVC ヘッダー)

将来のリリース用に予約済み。

URL mapping file (URL マッピング・ファイル)

URL マッピングに使用するファイルのパスを入力するか、デフォルト・ファイル `/opt/WebSphere/CommerceServer/xml/mapping/urlmapper.xml` を受け入れません。

データベース

データベース管理者名

データベース管理者のユーザー名を入力します。

Database administrator password (データベース管理者パスワード)

データベース管理者のユーザー ID に関連したパスワードを入力します。

データベース管理者のホーム・ディレクトリー

データベース管理者のホーム・ディレクトリー。デフォルトは `/home/db2inst1` です。

Database name (データベース名)

デフォルトを受け入れるか、ご使用のデータベースに割り当てる名前を入力します。この名前の長さは 8 文字以下でなければなりません。「インスタンス作成」ウィザードを使用してインスタンスを作成するとき、前に WebSphere Application Server リポジトリ用に作成した WebSphere Application Server データベースを指定しないでください。代わりに、このウィザードの「データベ

ース」ページの「データベース名」フィールドに、ご使用の WebSphere Commerce ストアの固有のデータベース名を指定してください (たとえば、MALL を使用できます)。

Database type (データベース・タイプ)

DB2 ユニバーサル・データベース を選択します。

データベース・ユーザー名

データベースの DB2 ユーザーをデータベース管理者以外に作成した場合は、このフィールドにそれらのユーザー ID を入力することができます。管理者以外の DB2 ユーザーがいなければ、その管理者のユーザー名を入力します。

Database user password (データベース・ユーザー・パスワード)

これは、上記のデータベース・ユーザー名に関連するパスワードです。管理者以外の DB2 ユーザーがいなければ、その管理者のユーザー名を入力します。

データベース・ユーザーのホーム・ディレクトリー

データベース・ユーザーのホーム・ディレクトリー。デフォルトは /home/db2inst1 です。

データベース・パフォーマンス・ウィザードの実行

「データベース・パフォーマンス・ウィザードの実行」チェック・ボックスを選択して、DB2 データベースの最適化を実行します。

Use staging server (ステージング・サーバーを使用する)

「Use Staging Server (ステージング・サーバーを使用する)」が選択されると、構成マネージャーは、このデータベースをステージング・サーバーが使用するデータベースとして定義します。ステージング・サーバーの詳細については、WebSphere Commerce のオンライン・ヘルプを参照してください。

Set as active database (アクティブ・データベースとして設定)

このデータベースをインスタンス用に使用する場合は、このオプションを選択します。

リモート・データベースの使用

このチェック・ボックスのチェックマークは外してください。リモート・データベース・サーバーを使用したい場合は、「WebSphere Commerce インストール・ガイド」の説明に従ってください。

言語

構成マネージャーの「Languages (言語)」パネルを使って、データベースがすべての必要な言語をサポートするように構成します。少なくとも 1 つの言語を選択する必要があります。データベースに言語サポートを追加するには、以下のステップを完了します。

1. 「Available Languages (使用可能な言語)」ウィンドウから、適切な言語の XML ファイルを選択します。XML ファイルの形式は、wcs.bootstrap_multi_xx_xx.xml になります。ここで、xx_xx は、選択したい言語の 4 文字からなるロケール・コードです。

2. 「Selected Languages (選択された言語)」 ウィンドウを指す矢印をクリックします。選択した言語が、「Selected Languages (選択された言語)」 ウィンドウにリストされます。
3. サポートが必要な各言語ごとに、ステップ 1 と 2 を繰り返します。

Web サーバー

リモート Web サーバーの使用

このチェック・ボックスが解除されていることを確認してください。リモート Web サーバーを使用したい場合は、「*WebSphere Commerce* インストール・ガイド」の説明に従ってください。

Hostname (ホスト名)

デフォルトを受け入れるか、WebSphere Commerce マシンの完全修飾のホスト名を入力します (host_name.domain.com は完全修飾名です)。デフォルトは、ご使用の システムのホスト名です。ホスト名フィールドに www 接頭部を入力していないことを確認します。デフォルトのホスト名を受け入れたい場合は、受け入れる前に、デフォルトのホスト名が完全修飾名であることを確認してください。

Web Server Type (Web サーバー・タイプ)

IBM HTTP Server を選択します。

Primary Document Root (1 次文書ルート)

デフォルトを受け入れるか、または Web サーバー文書のルート・パスを入力します。

Server Port (サーバー・ポート)

WebSphere Commerce Server に使用させるポート番号を入力します。デフォルト値は 80 です。

Authentication Mode (認証モード)

この WebSphere Commerce インスタンスに使用したい認証モードを選択します。選択項目は次のとおりです。

基本 認証は、カスタム証明書を使って実行されます。

X.509 認証は、X.509 証明書規格を使って実行されます。

WebSphere

データ・ソース名

WebSphere Commerce が処理するデータベースにアクセスするための接続プールをセットアップするために使用します。データ・ソース名を入力するか、デフォルトを受け入れます。

Port Number (ポート番号)

41 ページの『インストール後スクリプトの実行』で指定した、WebSphere Application Server が listen するポート・アドレスを入力します。デフォルトは 2222 です。

JDBC Driver Location (JDBC ドライバーの場所)

ご使用のシステム上の db2java.zip ファイルの位置を入力するか、デフォルトを受け入れます。

Stores Web Application (Stores Web アプリケーション)

WebSphere Application Server にある WebSphere Commerce Server の下に、デフォルトの Stores Web アプリケーションを構成させたい場合に、これを選択します。インスタンスが作成された後、このチェック・ボックスは使用不可になります。

Tools Web Application (Tools Web アプリケーション)

WebSphere Application Server にある WebSphere Commerce Server の下に、デフォルトの Tools Web アプリケーションを構成させたい場合に、これを選択します。インスタンスが作成された後、このチェック・ボックスは使用不可になります。

Tools ポート番号

WebSphere Commerce 管理ツールにアクセスするために使用するポート番号。デフォルト・ポート番号は、8000 です。

WebSphere Catalog Manager

このチェック・ボックスを選択すると、WebSphere Catalog Manager WebEditor がインストールされます。https://host_name:8000/wcm/webeditor でアクセス可能です。デフォルトではインストールされません。

Payment Manager

Hostname (ホスト名)

Payment Manager マシンの完全修飾ホスト名を入力します。この場合のデフォルトは WebSphere Commerce のホスト名です。

Profile Path (プロファイル・パス)

標準の WebSphere Commerce Payment Manager キャッシュャー・プロファイルが格納されるディレクトリーの絶対パス名。デフォルト値は、
/opt/WebSphere/CommerceServer/instances/instance_name/xml/ payment です。

Use non-SSL Payment Manager Client (非 SSL Payment Manager クライアントを使用) WebSphere Commerce に、SSL Payment Manager サーバーとの通信のために非 SSL Payment Manager クライアントを使用させたい場合に、このチェック・ボックスを使用可能にします。これにより、WebSphere Commerce Server は SSL を使用しなくても Payment Manager と通信できるようになります。

Web サーバー・ポート

Payment Manager が使用する Web サーバーの TCP ポートを入力します。

「非 SSL Payment Manager クライアントを使用」チェック・ボックスを選択した場合、このフィールドのデフォルトは 80 (非セキュア・ポート) です。このチェック・ボックスが選択されていない場合、このフィールドのデフォルト値は 443 (SSL ポート) です。

Use Socks Server (Socks サーバーを使用)

WebSphere Commerce が Payment Manager と通信するために Socks サーバーを経由しなければならない場合、このチェック・ボックスを選択します。

Socks Hostname (Socks ホスト名)

このフィールドは、「Use Socks Server (Socks サーバーを使用)」チェック・ボックスが選択された場合に使用可能になります。Socks サーバーの完全修飾ホスト名を入力します。

Socks Port Number (Socks ポート番号)

このフィールドは、「Use Socks Server (Socks サーバーを使用)」チェック・ボックスが選択された場合に使用可能になります。Socks サーバーが使用するポート番号を入力します。

ログ・システム

Trace File Location (トレース・ファイルの場所)

これは、デバッグ情報を収集するファイルです。これには英語のデバッグ・メッセージが含まれます。デフォルトの場所は
`/opt/WebSphere/CommerceServer/instances/instance_name/logs/ ecmsg.log`
です。

注: 「トレース・ファイルの場所」が「メッセージ・ファイルの場所」と同じ場合、ファイルの内容はマージされます。

Trace File Size (トレース・ファイル・サイズ)

トレース・ファイルの最大サイズ (MB) です。デフォルトは 40 MB です。トレース・ファイルがこのサイズに達すると、新しいトレース・ファイルが作成されます。

Message File Location (メッセージ・ファイルの場所)

これは、メッセージを収集し、WebSphere Commerce システムの状態を記述しているファイルです。メッセージはロケールに対応した言語になります。デフォルトの場所は
`/opt/WebSphere/CommerceServer/instances/instance_name/logs/ ecmsg.log`
です。

注: 「トレース・ファイルの場所」が「メッセージ・ファイルの場所」と同じ場合、ファイルの内容はマージされます。

Message File Size (メッセージ・ファイル・サイズ)

メッセージ・ファイルの最大サイズ (MB) です。デフォルトのサイズは 40 MB です。メッセージ・ファイルがこのサイズに達すると、新しいメッセージ・ファイルが作成されます。

Activity log Cache Size (アクティビティ・ログ・キャッシュ・サイズ)

アクティビティ・ログのキャッシュの最大サイズを入力します。デフォルトは 20 MB です。

Notification Enabled (通知使用可能)

このチェック・ボックスは、エラー・レベル・メッセージを通知したい場合に選択してください。これらのメッセージを受け取るには、WebSphere Commerce 管理コンソールで、通知情報を変更することも必要です。

メッセージング

User Template File (ユーザー・テンプレート・ファイル)

これは、ご使用のシステムでサポートされる新しいインバウンド XML メッセージを追加するための XML メッセージ・テンプレート定義ファイルの名前です。サポートしたいそれぞれの新しい XML メッセージごとに、1 つのアウトラインがこのファイルに追加されなければなりません。テンプレート・パス・ディレクトリーに保管されているデフォルトの `user_template.xml` を使用することをお勧めします。

Inbound Message DTD Path (インバウンド・メッセージ DTD パス)

これは、インバウンド XML メッセージの DTD ファイルすべてが保管されるパスです。デフォルトは `/opt/WebSphere/CommerceServer/xml/messaging` です。

WebController User ID (WebController ユーザー ID)

これは、WebSphere Commerce がすべての WebSphere Commerce MQSeries® Adapter インバウンド・メッセージを実行するのに使用する ID です。これは、サイト管理者権限を持つ ID にしてください。デフォルトは、`wcsadmin` です。インバウンド XML メッセージをマップすると、この ID を使用して WebSphere Commerce コマンドを入力できるので、許可された人だけに、「ユーザー・テンプレート・ファイル」および「システム・テンプレート・ファイル」を更新する権限を与えてください。

System Template File (システム・テンプレート・ファイル)

これは、WebSphere Commerce MQSeries Adapter によりサポートされるすべてのインバウンド XML メッセージのアウトラインを含む XML メッセージ・テンプレート定義ファイルの名前です。このファイルは、それぞれのメッセージについて、適切な WebSphere Commerce コントローラー・コマンドにメッセージをマップし、そのメッセージ内のそれぞれのフィールドをそのコマンドの適

切なパラメーターにマップして、データ・フィールドを定義します。テンプレート・パス・ディレクトリーに保管されているデフォルトの `sys_template.xml` を使用することをお勧めします。

Template Path (テンプレート・パス)

これは、ユーザー・テンプレート・ファイルおよびシステム・テンプレート・ファイルが保管されるパスです。デフォルトは `/opt/WebSphere/CommerceServer/xml/messaging` です。

Inbound Message DTD Files (インバウンド・メッセージ DTD ファイル)

これは DTD のリストであり、インバウンド XML メッセージ用のファイルを含みます。新しいインバウンド XML メッセージを追加する場合には、このフィールドにそれを追加する必要があります。

オークション

使用可能

オークションを使用可能にする場合、この「使用可能」チェック・ボックスを選択します。

SMTP サーバー

E メール・メッセージを受け取るために使用する SMTP サーバーを定義します。

応答 E メール

送信側の E メール情報。

すべてのパネルに必要な情報を入力すると、「終了」ボタンが使用可能になります。「終了」をクリックして、WebSphere Commerce インスタンスを作成します。

システムの速度によって、インスタンスの作成にかかる時間は数分から 1 時間ほどです。インスタンスを作成し始めるときに表示される進行状況バーで、プロセスの終了を示します。インスタンスが作成されると、WebSphere Commerce はこのインスタンスと関連した WebSphere Commerce Server を始動しようとします。これが完了したら、「OK」をクリックして「インスタンス作成」ウィザードをクローズしてください。

インスタンス作成の検査

インスタンスが適切に作成されたかどうかを検査するには、次のファイルをチェックします。

- `/opt/WebSphere/CommerceServer/instances/instance_name/xml/instance_name.xml`。このファイルには、WebSphere Commerce インスタンスについてのすべての構成情報が入っています。
- `/opt/WebSphere/CommerceServer/instances/instance_name/logs/createdb.log`。このファイルには、WebSphere Commerce データベース作成についての情報が入っています。

- /opt/WebSphere/CommerceServer/instances/*instance_name*/logs/ populatedb.log。
このファイルには、 WebSphere Commerce データベース移植プロセスについての情報が入っています。
- /opt/WebSphere/CommerceServer/instances/*instance_name*/logs/ WASConfig.log。
このファイルには、 WebSphere Application Server 内の、新規 WebSphere Commerce インスタンスのインストールおよび構成についての情報が入っています。
- /opt/WebSphere/CommerceServer/instances/*instance_name*/logs/ wcs.log。 このファイルは、 WebSphere Commerce アプリケーション・サーバーのオペレーションを記述しています。このログを使用して、サーバーが正しく開始したことを確認します。

次のステップ

WebSphere Commerce インスタンスの構成および開始後、53ページの『第9章 構成後のステップ』の説明に従ってインストールを完了することが必要です。

第 9 章 構成後のステップ

この章には、WebSphere Commerce 構成を完成させるために完了すべきすべてのステップを記載しています。以下の作業をこの章で説明しています。

- JavaServer Pages™ ファイルのコンパイル
- SSL をテスト用に使用可能にする
- Payment Manager を WebSphere Commerce と共に稼働するように構成する
- Payment Manager の設定を構成する
- セキュリティー・チェッカー・ツールを実行する

JavaServer Pages (JSP) ファイルのコンパイル

ここで、JavaServer Pages (JSP) ファイルをコンパイルされることをお勧めします。JavaServer Pages (JSP) ファイルをコンパイルすると、WebSphere Commerce ツールのロードに要する時間を大幅に短縮することができます。JavaServer Pages (JSP) ファイルをバッチ・コンパイルするには、以下のようにします。

1. wasuser に移動します。

```
su - wasuser
export DISPLAY=fully_qualified_host_name:0.0
```

2. コマンド・プロンプトから、/opt/WebSphere/CommerceServer/bin に切り替えます。
3. 次のコマンドを実行します。

注: *enterpriseApp*、*webModule*、または *nameServerHost* の名前にスペースが含まれている場合は、以下に示すように、二重引用符でそれらを囲む**必要があります**。

```
./WCSJspBatchCompiler.sh -enterpriseApp "WebSphere
Commerce Enterprise Application - instance_name"
-webModule "WCS Tools" -nameServerHost "short_host_name"
-nameServerPort port_number
```

ここで、*instance_name* は、WebSphere Commerce インスタンスの名前 (デフォルトは *demo*)、*short_host_name* は WebSphere Commerce マシンの名前、および *port_number* は 41 ページの『インストール後スクリプトの実行』に指定されたポートです (デフォルトは 2222)。

これらのコンパイルを実行するとエラーがいくつかログに記録されることがあります。これらのログは、無視してかまいません。

テスト用セキュリティー鍵ファイルの作成

このセクションで作成したセキュリティー鍵ファイルでは、無許可の人物によるショップ・トランザクションの閲覧を防ぐことはできませんが、ストアの作成には不可欠です。ストアを顧客に開放する前に、適切な「WebSphere Commerce インストールの手引き」の説明に従ってください。

テスト用セキュリティー鍵ファイルを作成するには、以下のようにします。

1. root ユーザーに移動します。

```
su - root
ksh
export DISPLAY=fully_qualified_host_name:0.0
```

2. 70 ページの『IBM HTTP Server の開始と停止』の説明に従って IBM HTTP Server を停止します。

3. オペレーティング・システム に SuSE Linux を使用している場合は、テキスト・エディターで以下のファイルを開きます。

```
/usr/local/ibm/gsk5/bin/gsk5ikm
```

行番号 196 を以下と置換します。

```
type -p $JAVA_HOME/bin/java 2>&1 > /dev/null
```

4. 「**IBM Key Management (IBM 鍵管理)**」ウィンドウで、「**Key Database File (鍵データベース・ファイル)**」メニューをクリックし、「**New (新規)**」を選択します。
5. 「**IBM 鍵管理**」の「**新規**」ウィンドウで、ファイル名 (keyfile.kdb) とファイルの場所 (/opt/IBMHTTPServer/ssl) を入力します。「**OK (了解)**」をクリックします。
6. 「**Password Prompt (パスワード・プロンプト)**」ウィンドウが表示されます。
7. IBM HTTP Server パスワードを入力して確認し、「**パスワードをファイルに隠す**」を使用可能にします。「**OK (了解)**」をクリックします。
8. 「**作成**」メニューをクリックし、「**新規の自己署名証明書**」を選択します。
9. 表示されるウィンドウで、オプション以外のすべてのフィールドに入力します。「**OK**」をクリックして、IBM 鍵管理ユーティリティーをクローズします。
10. 70 ページの『IBM HTTP Server の開始と停止』の説明に従って、IBM HTTP Server を始動します。

Payment Manager を WebSphere Commerce 共に稼働するように構成する

Payment Manager を WebSphere Commerce と共に稼働するように構成するには、以下を実行してください。

1. 以下の WebSphere Application Server 管理コンソールを開きます。

```
su - wasuser
export DISPLAY=fully_qualified_host_name:0.0
cd /opt/WebSphere/AppServer/bin
./adminclient.sh host_name port_number
```

ここで、*host_name* は、使用するマシンの完全修飾名で、*port_number* は、41 ページの『インストール後スクリプトの実行』で指定された方法で WebSphere Application Server にアクセスするときに使用するポートのことです。デフォルトは 2222 です。

2. エイリアスを作成するには、以下を実行します。
 - a. 「**WebSphere Administrative Domain (WebSphere 管理ドメイン)**」を展開します。
 - b. 「**仮想ホスト**」を選択します。
 - c. パネル右側の *default_host* を選択します。
 - d. 「**一般**」タブで、「**追加**」をクリックします。
 - e. エイリアス・フィールドに **:443* を入力し、「**追加**」をクリックします。
3. 「**ノード**」を展開します。

4. *node_name* を右マウス・ボタンでクリックして、「**Regen Webserver Plugin**」を選択します。

5. テキスト・エディターで、以下のファイルを開きます。

```
/opt/WebSphere/AppServer/config/plugin-cfg.xml
```

6. *plugin-cfg.xml* ファイルで、<Config> の下に次の行を直接入力してください。

```
<Property name="CacheLibrary" value="/opt/WebSphere/CommerceServer/bin/libwccache.so" />
```

7. WebSphere Application Server 管理コンソールを終了します。
8. IBM HTTP Server を停止して再始動してください。IBM HTTP Server を停止するには、以下のようになります。

```
su - root
cd /opt/IBMHTTPServer/bin
./apachectl stop
```

IBM HTTP Server を開始するには、以下のようになります。

```
su - root
cd /opt/IBMHTTPServer/bin
./apachectl start
```

9. WebSphere Application Server を始動します。WebSphere Application Server を始動するには、以下のようになります。

```
su - wasuser
export DISPLAY=fully_qualified_host_name:0.0
cd /opt/WebSphere/AppServer/bin
./startupServer.sh
```

重要

Payment Manager を使用する前に、少なくとも一度 WebSphere Commerce 管理コンソールにログインすることをお勧めします。WebSphere Commerce 管理コンソールにログインするには、以下のアドレスに進んでください。

`https://host_name :8000/adminconsole`

管理コンソールのデフォルトのユーザー ID (wcsadmin) とデフォルトのパスワード (wcsadmin) を入力してください。初めてログインする時は、パスワードの変更を求められます。

Payment Manager 設定の構成

Payment Manager のユーザー・インターフェースを使用する前に、WebSphere Commerce および Payment Manager が実行されていることを確認します。詳細については、71 ページの『Payment Manager の開始と停止』を参照してください。

Payment Manager を構成するには、以下のようにします。

1. 次に移動します。 `http://host_name/webapp/PaymentManager/`
2. Payment Manager にログオンします。
3. 「**Payment Manager の設定値**」を選択します。
4. Payment Manager ユーザー・インターフェースの「**Payment Manager Settings (Payment Manager の設定値)**」パネルでリストされているホスト名が、完全修飾ホスト名であることを確認してください。そうでない場合には、ホスト名フィールドを完全修飾ホスト名に変更しなければなりません。「**更新**」をクリックし、「**Disable Payment Manager (Payment Manager を使用不可にする)**」をクリックしてから、「**Enable Payment Manager (Payment Manager を使用可能にする)**」をクリックしてください。

セキュリティ・チェッカー・ツールの実行

このセクションでは、WebSphere Commerce のセキュリティ検査ツールを使用してシステムのセキュリティを検査する方法について説明します。セキュリティ・チェッカー・ツールは、システムに機密漏れの可能性がないかを検査し、削除するべきファイルを識別し、機密情報を含むファイルのアクセス権と所有権を検査して、IBM HTTP Server および WebSphere Application Server 内のセキュリティ・レベルを検査します。

セキュリティ検査ツールにアクセスするには、以下のようにします。

1. 「サイト / ストア・セレクション」ページから、「**サイト**」を選択し、「**OK**」をクリックして続行します。
2. サイトの管理コンソール上で、「セキュリティ」メニューから、「**セキュリティ・チェッカー**」を選択します。
3. セキュリティ・チェッカーには、「セキュリティ・チェッカー」を起動する「**起動**」ボタンが組み込まれており、最新のセキュリティ検査の結果を表示します。構成マネージャー パラメーターが適切に構成されていれば、“No security exposures found” というメッセージが表示されます。
4. ツールを実行し終わったら、「**OK**」をクリックしてください。

セキュリティ・チェッカー・ツールを実行すると、以下のログが作成されます。

- /opt/WebSphere/CommerceServer/instances/*instance_name*/logs/ sec_check.log. このファイルには、機密漏れの可能性についての情報が含まれています。

次のステップ

WebSphere Commerce の構成を完了するために必要なステップをすべて終了した後は、「ストア・サービス」を使用して、独自のストアを作成したり公開したりすることが可能になります。このタスクの実行については、59 ページの『第 4 部 WebSphere Commerce でのストアの作成』を参照してください。

第 4 部 WebSphere Commerce でのストアの作成

第 10 章 サンプル・ストア・アーカイブからのストアの作成

この章では、WebSphere Commerce に用意されているストア・アーカイブの 1 つからサンプル・ストアを作成するプロセスについて説明します。その他のストア作成方法およびストア・カスタマイズについての詳細は、WebSphere Commerce オンライン・ヘルプを参照してください。

WebSphere Commerce において、オンライン・ストアを作成する一番速く簡単な方法は、WebSphere Commerce に用意されているサンプル・ストアの 1 つと、ストア・サービスで使用可能なブラウザをベースとするツールを使用することです。サンプル・ストアは、ストア・アーカイブとして提供されています。

ストア・アーカイブは、ストアを作成するために必要なすべての資産 (Web およびデータベースの資産を含む) が収められている圧縮ファイルです。ユーザー独自のストアを作成するためには、ストア・サービスのツールを使用して、サンプル・ストア・アーカイブの 1 つを基にした新規ストア・アーカイブを作成してください。サンプル・ストア・アーカイブに基づいて作成した新規のストア・アーカイブは、新規ファイル名およびディレクトリー構造のもとに保管された、サンプル・ストア・アーカイブ内の資産の正確なコピーになります。

この段階で 2 つのオプションがあります。ストア・アーカイブをコマース・サーバーに対して公開し、サンプル・ストアの 1 つを基にして機能ストアを作成するか、あるいは最初に新規ストア・アーカイブに変更を加えてから、それをサーバーに公開することができます。

ストア・アーカイブ内のデータベース情報を変更するには、その資産を直接編集するか、またはストア・サービス内のツールである「ストア・プロフィール」ノートブック、「税」ノートブック、および「配送」ノートブックを使用します。

ストア・アーカイブに含まれている Web 資産 (ストア・ページ) を変更したり、新規の Web 資産を作成したりするには、WebSphere Commerce Studio のツールか、ユーザーが選択したツールを使用します。

ストア作成の詳細は、「*IBM WebSphere Commerce Store Developer's Guide*」を参照してください。

サンプル・ストアの 1 つを使用してストアを作成するには、以下のようになります。

1. ストア・アーカイブを作成する。
2. ストア・アーカイブを公開する。

ストア・アーカイブの作成

サンプル・ストアの 1 つを使用してストア・アーカイブを作成するには、以下のようになります。

1. 以下が実行中であることを確認します。
 - DB2
 - IBM HTTP Administration
 - IBM HTTP Server
 - WebSphere Application Server
 - WebSphere Application Server 管理コンソールで、以下が開始済みであることを確認します。
 - Websphere Commerce Server - *instance_name*
 - WebSphere Payment Manager
2. 以下のようして Payment Manager を開始します。
 - a. コマンド・ウィンドウを開き、ディレクトリーを、IBM Payment Manager がインストールされているディレクトリーに変更します。
 - b. 次のコマンドを入力してください。

```
./IBMPayServer
```

Payment Manager が Web サーバーではなくリモート側にインストールされている場合は、次のコマンドを使用して開始します。

```
./IBMPayServer -pmhost fully_qualified_Web_server_host_name
```

Payment Manager パスワードを入力するようにプロンプトが出されます。これは、Payment Manager データベースに接続するときに使用するために指定したユーザーのパスワードです。

3. Microsoft Internet Explorer 5.5 をオープンし、以下の URL を入力して、ストア・サービスを開始します。

```
https://host_name.domain.com:8000/storeservices
```


「ストア・サービスのログオン」ページが表示されます。デフォルトのインスタンス管理者ユーザー ID (wcsadmin)、およびデフォルトのパスワード (wcsadmin) を入力し、「ログオン」をクリックします。初めてログインする時は、パスワードの変更を求められます。

4. 「ストア・アーカイブの作成」ページが表示されます。「ストア・アーカイブ」フィールドに、ストア・アーカイブの名前を入力します。ユーザーが入力した名前に、拡張子 .sar が追加されます。たとえば、*Mystore.sar* となります。この名前はストア・アーカイブのファイル名になります。ストア・アーカイブの作成を終了すると、ストア・アーカイブは次の場所に保管されます。

```
/opt/WebSphere/CommerceServer/instances/instance_name/sar
```

5. 「ストア・ディレクトリー」フィールドに、ストアのディレクトリー名を入力します。このディレクトリー名としては、サーバー上の、Web 資産が公開されるディレクトリーを定義します。ストア・アーカイブは、公開される時、デフォルトでは、ここで定義したストア・ディレクトリーに公開されます。たとえば、「ストア・ディレクトリー」フィールドにディレクトリー名 "Mystore" を入力すると、次のディレクトリーが作成されます。

```
/opt/WebSphere/AppServer/installedApps/WC_Enterprise_App_  
instance_name.ear/wcstores.war/Mystore
```

6.  「ストア所有者」ドロップダウン・リストから、ストアを所有する組織、たとえば、「セラー組織」を選択します。

注: 購買組織をもたないお客様のために、「デフォルト組織」が使用可能です。ストア所有者としてデフォルト組織を選択することはしないでください。

7. 「ビュー」ドロップダウン・リストから、表示したいサンプル・ストアを選択します。
8. 「サンプル」リスト・ボックスから、ストアのベースとするストア・アーカイブを選択します。「サンプルの説明」ボックスにサンプルの説明が表示されます。最初にサンプル・ストアを表示するには、「プレビュー」をクリックします。
9. 「OK」をクリックします。
10. スタア・アーカイブが正常に作成されたことを通知するダイアログ・ボックスがオープンされます。「OK」をクリックします。
11. 「ストア・アーカイブ・リスト」が表示されます。作成したストア・アーカイブがリストに表示されたこと、および「ストア名」フィールドの名前がサンプル・ストアの名前と同じであることに、注目してください。「ストア・プロフィール」ノートブックを使用して、この名前を変更できます。

これで、サンプル・ストアを基にして、新規のストア・アーカイブを作成しました。この結果、新規ストア・アーカイブに、サンプル・ストアと同じ情報のすべてが含まれました。ユーザー独自のストアを作成するときは、この情報を変更したい可能性があります。この情報の変更に関する詳細は、WebSphere Commerce のオンライン・ヘルプと「IBM WebSphere Commerce Store Developer's Guide」を参照してください。本書の目的上、現時点ではこの情報を変更しないでください。

ストア・アーカイブの公開

WebSphere Commerce Server にストア・アーカイブを公開することで、稼働中のストアを作成することができます。ストア・アーカイブを公開する方法には以下の 2 つのオプションがあります。

- スタア・サービスからストア・アーカイブを公開する。
- コマンド行からストア・アーカイブを公開する。

このセクションでは、ストア・サービスからの公開についてのみ説明します。公開についてのその他の情報は、WebSphere Commerce のオンライン・ヘルプと「*IBM WebSphere Commerce Store Developer's Guide*」で入手できます。

ストア・サービスからのストア・アーカイブの公開

WebSphere Commerce Server にストア・アーカイブを公開することで、稼働中のストアを作成することができます。ストア・アーカイブを公開するには、以下のステップを完了します。

1. 以下が実行中であることを確認します。
 - DB2
 - IBM HTTP Administration
 - IBM HTTP Server
 - WebSphere Application Server
 - WebSphere Application Server 管理コンソールで、以下が開始済みであることを確認します。
 - Websphere Commerce Server - *instance_name*
 - WebSphere Payment Manager
2. Payment Manager が実行中でない場合は、以下のようにして IBM Payment Manager を開始します。
 - a. コマンド・ウィンドウを開き、ディレクトリーを、IBM Payment Manager がインストールされているディレクトリーに変更します。
 - b. 次のコマンドを入力してください。

```
./IBMPayServer
```

Payment Manager が Web サーバーではなくリモート側にインストールされている場合は、次のコマンドを使用して開始します。

```
./IBMPayServer -pmhost fully_qualified_web_server_host_name
```

Payment Manager パスワードを入力するようにプロンプトが出されます。これは、*payman* データベースに接続するときに使用するよう指定したユーザーのパスワードです。
3. サイト管理者またはストア管理者のアクセス権があることを確認します。ストア管理者のアクセス権がある場合は、そのアクセス権がすべてのストアに有効であることを確認します。
4. ストア・サービスの「ストア・アーカイブ」リストから、公開したいストア・アーカイブの横にあるチェック・ボックスを選択します。
5. 「公開」をクリックします。「ストア・アーカイブの公開」ページが表示されます。

- 希望する公開オプションを選択します。公開オプションの詳細を得るには、「ヘルプ」をクリックします。

注: 完全に機能装備されたストアを作成するには、最初にストア・アーカイブを公開する際に、商品データ・オプションを含むすべての公開オプションを選択してください。

- 「OK」をクリックします。ストアが公開される間に、「ストア・アーカイブ・リスト」ページに戻ります。公開の状態が「公開状況」列に反映されます。ご使用のシステムの速度に応じて、プロセス公開の完了には数分を要する場合があります。状況を更新するには、「最新表示」をクリックします。
- リストからストア・アーカイブを選択し、「公開の要約」をクリックして公開の結果を表示します。
- 公開が完了したら、「ストアの立ち上げ」をクリックしてストアを表示し、テストします。終了したら、サイトにブックマークを付け、ブラウザをクローズしてください。

JavaServer Pages ファイルのコンパイル

JavaServer Pages ファイルをコンパイルすると、ストアのロードに要する時間を大幅に短縮することができます。JavaServer Pages (JSP) ファイルをバッチ・コンパイルするには、WebSphere Commerce マシンで以下のようにします。

- コマンド・プロンプトから、`/opt/WebSphere/CommerceServer/bin` に切り替えます。
- 次のコマンドを実行します。

```
./WCSJspBatchCompiler.sh -enterpriseApp "WebSphere  
Commerce Enterprise Application - instance_name"  
-webModule "WCS Stores" -nameServerHost "short_host_name"  
-nameServerPort port_number
```

これらのコンパイルを実行するとエラーがいくつかログに記録されることがあります。これらは無視してかまいません。

重要:

- 公開できるのは一度に 1 つのストア・アーカイブだけです。同時公開はサポートされておらず、これを行うといずれのストアの公開も失敗することになります。
- 公開時、整合性検査プログラムにより、ストア・アーカイブで参照されるファイルが存在することが確認されます。整合性検査でエラーが検出されると、ログにエラーが記録されます。公開は通常どおり続行されます。
- ストアを再公開する前に、次のディレクトリー
`/opt/WebSphere/CommerceServer/instances/instance_name/cache` からファイルを削除します。

ストア作成フェーズの間は、キャッシングを使用不可にしておきます。このためには、構成マネージャーの「キャッシング」パネルをオープンし、「キャッシュを使用可能にする」が選択解除されていることを確認します。

- 「ストア・サービス」からストアを立ち上げると、ユーザーは、「ストア・サービス」にログインしたときに使用したのと同じユーザー名およびパスワードでストアにログインします。ストアでパスワードを変更する場合は、そのユーザーについてもパスワードを変更します。代わりに、サイトにブックマークを付け、ブラウザをクローズしてから、ストアに再度ログオンし、パスワードの変更を含む、ストア内の機能をテストします。また、ブラウザで以下の URL を入力して、ストアを立ち上げることもできます。

`https://host_name/webapp/wcs/stores/store_directory/index.jsp`

ストアでのテスト・オーダーの発行

ストアでテスト・オーダーを発行するには、以下のようにします。

1. 以下のようにストアをオープンします。
 - a. 「ストア・サービス」ウィンドウで、ユーザーのストアを選択し、「公開の要約」をクリックします。
 - b. 「公開の要約」画面で、「ストアの立ち上げ」を選択します。
 - c. スタアの Web アプリケーション Web パスを尋ねるウィンドウがオープンされます。適切なパスを入力します (デフォルトは /webapp/wcs/stores)。
 - d. Web ブラウザーでユーザーのストアの位置にブックマークを付けます。
 - e. 既存の Web ブラウザーすべてをクローズし、新規の Web ブラウザーをオープンします。
 - f. ユーザーのストアのホーム・ページにナビゲートします。
2. そのホーム・ページで、商品を選択します。商品ページで、「ショッピング・カートに追加」をクリックします。
3. オーダー・プロセスを完了します。テスト目的のために、VISA のクレジット・カード番号 0000000000000000 (16 個のゼロ) を使用できます。オーダーが完了したことを確認する、オーダーの確認ページが表示されます。

第 5 部 付録

付録 A. WebSphere Commerce コンポーネントの開始と停止

この付録では、WebSphere Commerce パッケージの一部として提供されている各製品を開始および停止する方法について説明します。いずれかのコンポーネントの再始動が必要な場合は、ここの情報を利用してください。

WebSphere Commerce の開始と停止

WebSphere Commerce インスタンスを開始または停止するには、次のようにします。

1. データベース管理システムと WebSphere Application Server が開始済みであることを確認してください。DB2 の場合は、71 ページの『DB2 ユニバーサル・データベースの開始と停止』を参照してください。WebSphere Application Server の場合は、『WebSphere Application Server の開始と停止』を参照してください。
2. 端末ウィンドウで次のように入力して、WebSphere Application Server 管理コンソールを起動します。

```
su - wasuser
export DISPLAY=fully_qualified_host_name:0.0
cd /opt/WebSphere/AppServer/bin
./adminclient.sh host_name port_number
```

3. 「**WebSphere Administrative Domain (WebSphere 管理ドメイン)**」を展開します。
4. 「ノード」を展開します。
5. ホスト名を展開します。
6. 「アプリケーション・サーバー」を展開します。
7. 「**WebSphere Commerce サーバー — instance_name**」を選択して、右クリックします。必要に応じて、「**Start (開始)**」または「**Stop (停止)**」を選択します。

WebSphere Application Server の開始と停止

WebSphere Application Server を開始するには、以下のようになります。

1. データベース管理システムが開始済みであることを確認してください。
2. 端末ウィンドウで次のコマンドを入力します。

```
su - wasuser
export DISPLAY=fully_qualified_host_name:0.0
cd /opt/WebSphere/AppServer/bin
./startupServer.sh &
```

/opt/WebSphere/AppServer/logs/tracefile をチェックして、 WebSphere Application Server が正常に開始されたことを確認します。

WebSphere Application Server を停止するには、以下のようにします。

1. 端末ウィンドウで以下のように入力して、WebSphere Application Server 管理コンソールを開始します。

```
su - wasuser
export DISPLAY=fully_qualified_host_name:0.0
cd /opt/WebSphere/AppServer/bin
./adminclient.sh host_name port_number
```

2. WebSphere Application Server 管理コンソール内で、短いホスト名を持つノードを選択します。
3. 「stop (停止)」 ボタンをクリックします。次のような警告メッセージが表示されます。

You are trying to stop the node that the console is connected to. This will cause the console to exit after the node is stopped. Do you want to continue?

「**Yes (はい)**」 をクリックして続行します。

4. WebSphere Application Server 管理コンソールが停止した後に、端末ウィンドウで以下のコマンドを発行して、WebSphere Application Server に関連したプロセスがすべて停止していることを確認します。

```
ps -ef | grep startupServer
```

5. このコマンドによって、Java プロセスが戻された場合、kill コマンドを発行してそれらを停止します。

IBM HTTP Server の開始と停止

IBM HTTP Server には、開始および停止することができる 2 種類のサーバーがあります。

- IBM HTTP Server
- IBM HTTP 管理サーバー

IBM HTTP Server を開始するには、端末ウィンドウで以下のコマンドを入力してください。

```
su - root
cd /opt/IBMHTTPServer/bin
./apachectl start
```

IBM HTTP Server を停止するには、以下のようにします。

1. WebSphere Commerce および WebSphere Application Server が停止されていることを確認します。
2. 端末ウィンドウで以下のコマンドを入力します。

```
su - root
cd /opt/IBMHTTPServer/bin
./apachectl stop
```

IBM HTTP 管理サーバーを開始するには、端末ウィンドウで以下のコマンドを入力してください。

```
su - root
cd /opt/IBMHTTPServer/bin
./adminctl start
```

IBM HTTP 管理サーバーを停止するには、端末ウィンドウで以下のコマンドを入力してください。

```
su - root
cd /opt/IBMHTTPServer/bin
./adminctl stop
```

DB2 ユニバーサル・データベースの開始と停止

DB2 ユニバーサル・データベース を開始するには、以下のようになります。

1. DB2 インスタンス ID としてログオンします。
2. db2start と入力します。

DB2 を停止するには、以下のようになります。

1. 69 ページの『WebSphere Commerce の開始と停止』の手順に従って、WebSphere Commerce を停止します。
2. 69 ページの『WebSphere Application Server の開始と停止』の手順に従って、WebSphere Application Server を停止します。
3. DB2 インスタンス ID でログオンして、db2stop と入力します。DB2 に接続されているアプリケーションがあれば、代わりに次のコマンドを使用します。

```
db2stop force
```

Payment Manager の開始と停止

Payment Manager の開始

Payment Manager を開始するには、以下のようになります。

1. データベースが開始済みであることを確認します。
2. Web サーバーを開始します。
3. WebSphere Application Server が開始済みであることを確認します。
4. 72 ページの『Payment Manager アプリケーション・サーバーの開始』の説明に従って、WebSphere Application Server 管理コンソールの Payment Manager アプリケーション・サーバーを開始します。

- 『Payment Manager の開始』の説明に従って、Payment Manager を開始します。

Payment Manager アプリケーション・サーバーの開始

WebSphere Application Server 4.0.2 を使用している場合は、Payment Manager アプリケーション・サーバーを開始することで、すべてのサーブレットを開始することができます。Payment Manager アプリケーション・サーバーを開始するには、以下のようになります。

- WebSphere Application Server 管理コンソールをオープンします。
- 「**WebSphere Administrative Domain (WebSphere 管理ドメイン)**」を展開します。
- 「**ノード**」を展開します。
- Payment Manager がインストールされているノードを展開します。
- 「**アプリケーション・サーバー**」を展開します。
- 「**WebSphere Payment Manager**」を右マウス・ボタンでクリックして、「**開始**」を選択します。

Payment Manager の開始

IBMPayServer スクリプトを使用して Payment Manager を開始する場合、データベース管理者のパスワードを指定する必要があります。

端末ウィンドウから次のコマンドを入力します。

```
su - wasuser
export DISPLAY=fully_qualified_host_name:0.0
cd /opt/PaymentManager
./IBMPayServer
```

Payment Manager が Web サーバーからリモートでインストールされている場合は、次のコマンドを実行してこれを開始します。

```
./IBMPayServer -pmhost fully_qualified_Web_server_host_name
```

Payment Manager パスワードを入力するためのプロンプトが表示されます。

あるいは、Payment Manager のインストール中に、自動的に作成されたパスワード・ファイル (.payment ファイル) を使用して、Payment Manager を開始することができます。Payment Manager を開始するコマンドには、以下の構文が使用されています。

```
./IBMPayServer -file
```

このファイルには、クリア・テキストで Payment Manager パスワードが含まれているため、Payment Manager の開始にこの方法を使用しない場合には、このファイルを削除することを強くお勧めします。

Payment Manager ユーザー・インターフェースの開始

Payment Manager と Payment Manager アプリケーション・サーバーを開始した後、次のようにして Payment Manager ユーザー・インターフェースを開始します。

1. Web ブラウザーで次のアドレスを参照します。

`http://host_name/webapp/PaymentManager/`

ここで、*host_name* は、Web サーバーの完全修飾ホスト名です。

2. 「Payment Manager Logon」ウィンドウで、Payment Manager 管理者のユーザー ID およびパスワードを入力して、「OK (了解)」をクリックします。デフォルトのユーザー ID は `wcsadmin` で、パスワードはユーザーの `wcsadmin` パスワードです (デフォルトは `wcsadmin` ですが、`wcsadmin` ユーザー ID を使用して最初に WebSphere Commerce のコンポーネントにログオンするときに、変更する必要があります)。

WebSphere Commerce と共に Payment Manager を使用している場合、すべての WebSphere Commerce 管理者は Payment Manager ユーザーでもあります。ただし、管理者 ID "wcsadmin" だけに、「Payment Manager 管理者」役割が最初から割り振られています。Payment Manager ユーザー・インターフェースにログインするには、次の 4 つの Payment Manager 役割のうち 1 つが割り振られている管理者 ID を使用する必要があります。

- Payment Manager 管理者
- マーチャント管理者
- スーパーバイザー
- クラーク

Payment Manager の役割に関する情報については、「*Payment Manager* アドミニストレーター・ガイド」を参照してください。

`wcsadmin` ID を使用して Payment Manager ユーザー・インターフェースにログインする前に、`wcsadmin` ユーザー ID を使用して WebSphere Commerce 管理コンソールにログインし、このユーザー ID のデフォルト・パスワードの変更を済ませておく必要があります。このとき、パスワードの変更を求められます。

また、WebSphere Commerce 管理コンソールから Payment Manager 管理機能にアクセスすることもできます。

Payment Manager の停止

Payment Manager を停止するには、次のようにします。

1. データベースが開始済みであることを確認してください。
2. WebSphere Application Server が開始済みであることを確認してください。
3. Payment Manager を停止します。

4. WebSphere Application Server の下の Payment Manager アプリケーション・サーバーを停止します。

Payment Manager の停止

StopIBMPayServer コマンドを実行して、Payment Manager を停止することができます。

1. /opt/PaymentManager ディレクトリーに移動します。
2. 以下を入力してください。./StopIBMPayServerStopIBMPayServer スクリプトには、引き数は指定しません。
3. プロンプトが出されたら、Payment Manager のパスワードを入力します。

Payment Manager アプリケーション・サーバーの停止

WebSphere Application Server を使用しているとき、Payment Manager アプリケーション・サーバーを停止することによって、すべてのサブレットを停止することができます。Payment Manager アプリケーション・サーバーを停止するには、以下のようになります。

1. WebSphere Application Server 管理コンソールをオープンします。
2. 「**WebSphere Administrative Domain (WebSphere 管理ドメイン)**」を展開します。
3. 「**ノード**」を展開します。
4. Payment Manager がインストールされているノードを展開します。
5. 「**アプリケーション・サーバー**」を展開します。
6. 「**WebSphere Payment Manager**」を右マウス・ボタンでクリックして、「**停止**」を選択します。

付録 B. 本書の追加情報の入手先

WebSphere Commerce システムとそのコンポーネントについての情報は、これ以外にも各種の形式のさまざまなソースから利用することができます。以下のセクションでは、利用可能な情報と、そのアクセス方法を示します。

WebSphere Commerce 情報

WebSphere Commerce 情報のソースは、以下のとおりです。

- WebSphere Commerce オンライン・ヘルプ
- WebSphere Commerce PDF ファイル
- WebSphere Commerce Web サイト

オンライン・ヘルプの使用

印刷可能な文書の調べ方

一部のオンライン情報は、システム上で PDF ファイルによって使用することができます。この形式のファイルは Adobe® Acrobat® Reader を使用して表示および印刷することができます。Acrobat Reader は、Adobe の Web サイトから無償でダウンロードできます。Web アドレスは以下のとおりです。

<http://www.adobe.com>

WebSphere Commerce Web サイトの表示

WebSphere Commerce 製品に関する情報は、以下の WebSphere Commerce Web サイトから入手できます。

- Business Edition:
http://www.ibm.com/software/webservers/commerce/wc_be/lit-tech-general.html
- Professional Edition:
http://www.ibm.com/software/webservers/commerce/wc_pe/lit-tech-general.html

本書のコピーとすべての更新版は、PDF ファイルで WebSphere Commerce Web サイトの Library セクションから入手できます。さらに、新規および更新済みの資料も Web サイトから入手することができます。

IBM HTTP Server 情報

IBM HTTP Server に関する情報は、以下の Web アドレスから入手できます。

<http://www.ibm.com/software/webservers/httpservers/>

文書は、HTML 形式、PDF ファイル (英語版のみ)、またはこれら両方の形式です。

Payment Manager 情報

追加の Payment Manager 情報は、以下の Payment Manager Web サイトのライブラリー・リンクから使用可能です。

<http://www.ibm.com/software/webservers/commerce/payment>

Payment Manager 資料は以下の場所から入手できます。

- IBM Payment Manager 3.1.2 CD の ディレクトリー。
- IBM Payment Manager 3.1.2 カセット CD の ディレクトリー。
- Payment Manager のインストール後に、 WebSphere Application Server インストール・ディレクトリーの Payment Manager ディレクトリーにインストール済み。

以下の Payment Manager 資料が入手可能です。

- *IBM WebSphere Payment Manager for Multiplatforms* インストール・ガイド、PDF ファイル形式 (paymgrinstall.pdf)
- *IBM WebSphere Payment Manager* 管理者ガイド、 PDF ファイル形式 (paymgradmin.pdf)
- *IBM WebSphere Payment Manager for Multiplatforms* プログラマーのガイドとリファレンス、PDF ファイル形式 (paymgrprog.pdf)
- *IBM WebSphere Payment Manager for Multiplatforms for SET* 補足、PDF ファイル形式 (paymgrset.pdf)
- *IBM WebSphere Payment Manager for Multiplatforms Cassette for VisaNet Supplement*、PDF ファイル形式 (paymgrvisanet.pdf)
- *IBM WebSphere Payment Manager for Multiplatforms for CyberCash* 補足、PDF ファイル形式 (paymgrcyber.pdf)
- *IBM WebSphere Payment Manager for Multiplatforms for BankServACH Supplement*、PDF ファイル形式 (paymgrbank.pdf)
- Payment Manager の README ファイル。HTML 形式 (readme.framework.html)
- IBM Cassette for SET の README ファイル、HTML 形式 (readme.set.html)
- IBM Cassette for VisaNet の README ファイル、HTML 形式 (readme.visanet.html)

- IBM Cassette for CyberCash の README ファイル、HTML 形式 (readme.cybercash.html)
- IBM Cassette for BankServACH の README ファイル、HTML 形式 (readme.bankservach.html)

WebSphere Commerce オンライン・ヘルプの *Secure Electronic Transactions* にも、Payment Manager の情報が含まれています。

WebSphere Application Server

WebSphere Application Server に関する情報は、以下の WebSphere Application Server Web サイトから入手できます。

<http://www.ibm.com/software/webservers/appserv>

DB2 ユニバーサル・データベース情報

利用可能な DB2 資料の詳細なリスト、および資料の表示と印刷方法については、*DB2 概説*および*インストール*という資料を参照してください。DB2 に関する追加情報は以下の Web アドレスから入手できます。

<http://www.ibm.com/software/data/db2>

ダウンロード可能なツール

WebSphere Commerce Installation and Configuration Checker

WebSphere Commerce Installation and Configuration Checker、または IC Checker は、独立のダウンロード可能な問題判別ツールです。このツールを使用して、WebSphere Commerce のインストールおよび構成を検査できます。IC Checker は、構成データとログを収集し、単純なエラー検査を実行します。以下は、WebSphere Commerce IC Checker に関する詳細情報の一部です。

- 現在サポートされている製品には、WebSphere Commerce Suite 5.1 Start and Pro Editions、WebSphere Commerce 5.1 Business Edition、および WebSphere Commerce 5.4 Professional and Business Editions があります。
- このツールには次の URL からオンラインでアクセスし、ダウンロードできます。

http://www.ibm.com/software/webservers/commerce/whats_new_support.html

http://www.ibm.com/software/webservers/commerce/wc_be/support-tools.html

その他の IBM 資料

ほとんどの IBM 資料は IBM 特約店あるいは営業担当員から購入することができます。

付録 C. プログラム仕様および所定オペレーティング環境

このバージョンの WebSphere Commerce は、以下のオペレーティング環境をサポートします。

- Red Hat Linux 7.2
- SuSE Linux 7.0、Enterprise Server

WebSphere Commerce 5.4 には、以下のコンポーネントが含まれます。

WebSphere Commerce Server

WebSphere Commerce Server は、e-commerce ソリューションに含まれる、ストアおよびコマース関連の機能を扱います。それらの機能は、以下のコンポーネントによって実現します。

- ツール (ストア・サービス、ローダー・パッケージ、Commerce アクセラレーター、管理コンソール)
- サブシステム (カタログ、メンバー、折衝、オーダー)
- 商品アドバイザー
- 共通サーバー・ランタイム
- システム管理
- メッセージング・サービス
- WebSphere Application Server

ストア・サービス

ストア・サービスは、ストアに対する特定の操作可能フィーチャーを作成、カスタマイズ、および保守するための中心的な場を提供します。

ローダー・パッケージ

ローダー・パッケージによって、ASCII および XML ファイルを介して製品情報の初期ロードを行うこと、および情報の全部または一部を増分的に更新することができます。オンライン・カタログは、このツールを使用して更新されます。

WebSphere Commerce Accelerator

ストアおよび製品データが作成された後、WebSphere Commerce アクセラレーターを使用してストアを管理し、ビジネス戦略を促進することができます。WebSphere Commerce アクセラレーターは、WebSphere Commerce がオンライン・ストアを運用するために提供するすべての機能、たとえばストアおよび商品管理、マーケティング、顧客オーダー、顧客サービスなどの、統合機能を提供します。

WebSphere Commerce 管理コンソール

サイト管理者またはストア管理者は、管理コンソールによって、サイトおよびストアの構成に関連した次のようなタスクを実行することができます。

- ユーザーおよびグループの管理 (アクセス制御)
- パフォーマンス・モニター
- メッセージングの構成
- IBM WebSphere Payment Manager の機能
- Brokat Blaze Rules の管理

以下の製品が WebSphere Commerce 5.4 にバンドルされて、サポートされています。

IBM DB2 ユニバーサル・データベース 7.1.0.60

DB2 ユニバーサル・データベースは、サイトに関するすべての情報用のリポジトリとして WebSphere Commerce が使用する、全機能を有するリレーショナル・データベースです。これには、商品とカテゴリー・データ、ページ用のグラフィカル・エレメントへのポインター、注文状況、住所情報、それにその他の多くのデータ・タイプが含まれています。

DB2 エクステンダー

DB2 エクステンダーは、サイトへの追加検索機能を提供する、DB2 用のオプションのコンポーネントです。DB2 テキスト・エクステンダーを使用すると、ブール検索およびワイルド・カード検索だけでなく、同義語、あいまい一致、および隣接語の検索を含む数多くの検索の種類をサポートできます。

IBM HTTP Server 1.3.19.1

IBM HTTP Server は、広範囲にわたる管理機能、Java デプロイメントのサポート、Proxy サーバー・サービス、クライアントとサーバーの認証およびデータの暗号化など、SSL 3 のサポートを含むセキュリティー機能を提供する堅固な Web サーバーです。

IBM Payment Manager 3.1.2

Payment Manager は、SET (Secure Electronic Transaction)、および Merchant Initiated Authorization などの、さまざまな方法を使用して、マーチャントにリアルタイムのインターネット決済処理を提供します。

WebSphere Application Server 4.0.2

WebSphere Application Server は、インターネットおよびイントラネットの Web アプリケーションの構築、配置、および管理のための Java ベースのアプリケーション環境です。この製品には、IBM Developer Kit for Linux, Java Technology Edition, v1.3 が含まれています。

IBM WebSphere Commerce Analyzer 5.4

IBM WebSphere Commerce Analyzer は、オプションでインストールする WebSphere Commerce の新しい機能です。IBM WebSphere Commerce Analyzer の WebSphere Commerce 固有のエントリー版は、顧客のプロファイ

ル作成およびキャンペーン・パフォーマンスのモニターに関するレポートを提供します。このレポートをカスタマイズすることはできません。 Brio Broadcast Server がなければ IBM WebSphere Commerce Analyzer をインストールできないことに注意してください。

Brio Broadcast Server

Brio Broadcast Server は、照会の処理およびレポートの配布を自動化するバッチ処理サーバーです。 Brio Broadcast Server では大量のデータを多数の人に送付できますが、製品にセキュリティー保護機能が組み込まれているため、管理者はデータベース・アクセスと文書配布を厳密に制御することができます。

IBM SecureWay Directory Server 3.2.1

IBM SecureWay[®] Directory は、アプリケーション固有のディレクトリーの急増(コストの増加の主要な要因となる)を解消するために、共通ディレクトリーを提供します。 IBM SecureWay Directory は、LDAP のクロス・プラットフォームで、セキュリティーおよび e-business ソリューションに対して、高度にスケールラブルで、堅固なディレクトリー・サーバーです。 WebSphere Commerce とともに出荷された SecureWay のバージョンは 3.1.1.5 ですが、現在サポートされているのは IBM SecureWay Directory Server 3.2.1 です。これは Web からダウンロードして使用可能です。

Segue SilkPreview 1.0

Segue SilkPreview は、アプリケーション開発を通しての結果を分析してレポートするための情報のリポジトリーを提供します。

WebSphere Commerce 5.4 Recommendation Engine powered by LikeMinds

Macromedia LikeMinds は、個々の Web 訪問者ごとに、商品推奨とターゲットを絞った販売促進を行います。これは、共同フィルター操作および Market Basket Analysis に基づく、Personalization Server です。

特記事項

本書は米国 IBM が提供する製品およびサービスについて作成したものであり、本書に記載の製品、サービス、または機能が日本においては提供されていない場合があります。

本書に記載の製品、サービス、または機能が日本においては提供されていない場合があります。日本で利用可能な製品、サービス、および機能については、日本 IBM の営業担当員にお尋ねください。本書で IBM 製品、プログラム、またはサービスに言及していても、その IBM 製品、プログラム、またはサービスのみが使用可能であることを意味するものではありません。これらに代えて、IBM の知的所有権を侵害することのない、機能的に同等の製品、プログラム、またはサービスを使用することができます。ただし、IBM 以外の製品、プログラムまたはサービスの操作性の評価および検証は、お客様の責任で行っていただきます。

本書で IBM 製品、プログラム、またはサービスに言及していても、その IBM 製品、プログラム、またはサービスのみが使用可能であることを意味するものではありません。IBM 製品、プログラムまたはサービスに代えて、IBM の知的所有権を侵害することのない機能的に同等のプログラムまたは製品を使用することができます。ただし、IBM によって明示的に指定されたものを除き、他社の製品と組み合わせた場合の動作の評価と検証はお客様の責任で行っていただきます。

IBM は、本書に記載されている内容に関して特許権（特許出願中のものを含む。）を保有している場合があります。本書の提供は、お客様にこれらの特許権について実施権を許諾することを意味するものではありません。実施権の許諾については、下記の宛先に書面にてご照会ください。

〒106-0032 東京都港区六本木 3 丁目 2-31

IBM World Trade Asia Corporation
Intellectual Property Law & Licensing

以下の保証は、国または地域の法律に沿わない場合は、適用されません。

IBM およびその直接または間接の子会社は、本書を特定物として現存するままの状態を提供し、商品性の保証、特定目的適合性の保証および法律上の瑕疵担保責任を含むすべての明示もしくは黙示の保証責任を負わないものとします。国または地域によっては、法律の強行規定により、保証責任の制限が禁じられる場合、強行規定の制限を受けるものとします。

本書は定期的に見直され、必要な変更（たとえば、技術的に不適切な表現や誤植など）は、本書の次版に組み込まれます。IBM は予告なしに、随時、この文書に記載されている製品またはプログラムに対して、改良または変更を行うことがあります。

本書において IBM 以外の Web サイトに言及している場合がありますが、便宜のため記載しただけであり、決してそれらの Web サイトを推奨するものではありません。それらの Web サイトにある資料は、この IBM 製品の資料の一部ではありません。それらの Web サイトは、お客様の責任でご使用ください。

IBM は、お客様が提供するいかなる情報も、お客様に対してなんら義務も負うことのない、自ら適切と信ずる方法で、使用もしくは配布することができるものとします。

本プログラムのライセンス保持者で、(i) 独自に作成したプログラムとその他のプログラム（本プログラムを含む）との間での情報交換、および (ii) 交換された情報の相互利用を可能にすることを目的として、本プログラムに関する情報を必要とする方は、下記に連絡してください。

IBM Canada Ltd.
Office of the Lab Director
8200 Warden Avenue
Markham, Ontario
L6G 1C7
Canada

本プログラムに関する上記の情報は、適切な使用条件の下で使用することができますが、有償の場合もあります。

本書で説明されているライセンス・プログラムまたはその他のライセンス資料は、IBM 所定のプログラム契約の契約条項、IBM プログラムのご使用条件、またはそれと同等の条項に基づいて、IBM より提供されます。

この文書に含まれるいかなるパフォーマンス・データも、管理環境下で決定されたものです。そのため、他の操作環境で得られた結果は、異なる可能性があります。一部の測定が、開発レベルのシステムで行われた可能性があります。その測定値が、一般に利用可能なシステムのものと同じである保証はありません。さらに、一部の測定値が、推定値である可能性があります。実際の結果は、異なる可能性があります。お客様は、お客様の特定の環境に適したデータを確かめる必要があります。

IBM 以外の製品に関する情報は、その製品の供給者、出版物、もしくはその他の公に利用可能なソースから入手したものです。IBM は、それらの製品のテストは行っておりません。したがって、他社製品に関する実行性、互換性、またはその他の要求については確認できません。IBM 以外の製品の性能に関する質問は、それらの製品の供給者にお問い合わせください。

IBM の将来の方向または意向に関する記述については、予告なしに変更または撤回される場合があります、単に目標を示しているものです。

本書はプランニング目的としてのみ記述されています。記述内容は製品が使用可能になる前に変更になる場合があります。

本書には、日常の業務処理で用いられるデータや報告書の例が含まれています。より具体性を与えるために、それらの例には、個人、企業、ブランド、あるいは製品などの名前が含まれている場合があります。これらの名称はすべて架空のものであり、名称や住所が類似する企業が実在しているとしても、それは偶然にすぎません。

この製品で使用されているクレジット・カードのイメージ、商標、商号は、そのクレジット・カードを利用して支払うことを、それら商標等の所有者によって許可された人のみが、使用することができます。

商標

以下は、IBM Corporation の商標です。

WebSphere	DB2	DB2 Extenders
DB2 Universal Database	VisualAge	IBM
SecureWay		

Notes、および Lotus は、Lotus Development Corporation の商標です。

Microsoft、Windows、Windows NT、および Windows ロゴは、Microsoft Corporation の米国およびその他の国における商標または登録商標です。

Action Media、LANDesk、MMX、Pentium および ProShare は、Intel Corporation の米国およびその他の国における商標です。

SET、SET ロゴ、SET Secure Electronic Transaction および Secure Electronic Transaction は、SET Secure Electronic Transaction LLC の商標です。

Java およびすべての Java 関連の商標およびロゴは、Sun Microsystems, Inc. の米国およびその他の国における商標および登録商標です。

UNIX は、The Open Group がライセンスしている米国およびその他の国における登録商標です。

他の会社名、製品名およびサービス名などはそれぞれ各社の商標または登録商標です。

索引

日本語, 数字, 英字, 特殊文字の順に配列されています。なお, 濁音と半濁音は清音と同等に扱われています。

[ア行]

インストール

インストール前 9

前提条件となるソフトウェア要件 10

前提条件となるハードウェア要件 10

その他の要件 11

知識の要件 9

DB2 UDB フィックスパック 15

DB2 ユニバーサル・データベース 15

Lotus Notes 11

Payment Server 33

WebSphere Application Server 23

WebSphere Commerce 5.4 31

インストール前

その他の要件 11

ソフトウェア要件 10

知識の要件 9

ハードウェア要件 10
要件 9

Lotus Notes 11

Payment Manager 33

インストール前のその他の要件 11

インストール・パス (デフォルト) 4

[カ行]

開始

IBM HTTP Server 70

Payment Manager 71

Payment Manager Engine 72

Payment Manager ユーザー・インターフェース 73

規則、本書で使用される 3

構成

WebSphere Commerce インスタンス 43

構成マネージャー

インスタンスの作成 43

Auction ノード 51

Database ノード 45

Instance ノード 45

Log System ノード 49

Messaging ノード 50

Payment Manager ノード 48

Web Server ノード 47

WebSphere ノード 47

[サ行]

最新の変更 3

サポートされる Web ブラウザー 4

商品アドバイザー

使用されるポート番号 4

情報

印刷可能文書 75

規則、本書で使用される 3

最新の変更 3

デフォルトのインストール・パス 4

本書の概要 3

DB2 ユニバーサル・データベース ホーム・ページ 77

IBM HTTP Server ホーム・ページ 76

Payment Manager README 33

Payment Manager ホーム・ページ 76

README 3

WebSphere Application Server ホーム・ページ 77

WebSphere Commerce 75

WebSphere Commerce Web サイト 3

情報 (続き)

WebSphere Commerce オンライン・ヘルプの使用 75

WebSphere Commerce ホーム・ページ 75

所定オペレーティング環境 79

[タ行]

停止

IBM HTTP Server 70

Payment Manager 71, 73

Payment Manager Engine を WebSphere Application Server によって 72

Payment

Manager, StopIBMPayServer の使用 74

Payment Manager, WebSphere Application Server の使用 74

デフォルトのインストール・パス 4

[ハ行]

ハードコピー情報 75

プログラム仕様 79

本書の概要 3

[マ行]

まえがき、本書の 3

[ヤ行]

ユーザー ID およびパスワード

iSeries ユーザー・プロファイル 6

要件

インスタンスを構成する前に 41

その他の要件 11

ソフトウェア 10

要件 (続き)

知識 9

ハードウェア 10

iSeries ユーザー・プロファイル
6

Lotus Notes 11

A

Auction ノード、構成マネージャーで
の 51

D

Database ノード、構成マネージャー
での 45

DB2 ユニバーサル・データベース
インストール 15

開始と停止 71

使用されるポート番号 4

パスワード基準 17

ホーム・ページ 77

Database ノード、構成マネージャ
ーでの 45

I

IBM HTTP Server

開始と停止 70

使用されるポート番号 4

ホーム・ページ 76

Instance ノード、構成マネージャーで
の 45

Internet Explorer 4

iSeries ユーザー・プロファイルの要
件 6

L

LDAP (Lightweight Directory Access
Protocol)

使用されるポート番号 4

Log System ノード、構成マネージャ
ーでの 49

Lotus Notes 11

M

Messaging ノード、構成マネージャ
ーでの 50

N

Netscape Communicator 4

Netscape Navigator 4

P

Payment Manager

インストール 33

インストールの前提条件 33

開始と停止 71

構成マネージャーでのノード 48

使用されるポート番号 4

停止 73

ホーム・ページ 76

Payment Manager Engine の開始
72

Payment Manager Engine を
WebSphere Application Server に
よって停止する 72

Payment Manager の停止 74

Payment Manager ユーザー・イン
ターフェースの開始 73

StopIBMPayServer コマンド 74

WebSphere Application Server を
使用した Payment Manager の停
止 74

Payment Manager ノード、構成マネ
ージャーでの 48

R

README ファイル 3

S

StopIBMPayServer Payment Manager
コマンド 74

W

Web Server ノード、構成マネージャ
ーでの 47

Web ブラウザー、サポートされる
4

WebSphere Application Server

インストール 23

使用されるポート番号 4

ホーム・ページ 77

Messaging ノード、構成マネージャ
ーでの 50

WebSphere ノード、構成マネージャ
ーでの 47

WebSphere Commerce

印刷可能文書の調べ方 75

インスタンスの作成および更新
43

オンライン・ヘルプの使用 75

開始と停止 69

構成の前に 41

使用されるポート番号 4

情報源 75

プログラム仕様および所定オペレ
ーティング環境 79

ホーム・ページ 75

WebSphere Commerce Web サイト
3

WebSphere Commerce インスタンス
構成の前に 41

作成ウィザード 44

作成および更新 43

Auction ノード、構成マネージャ
ーでの 51

Database ノード、構成マネージャ
ーでの 45

Instance ノード、構成マネージャ
ーでの 45

Log System ノード、構成マネ
ージャーでの 49

Messaging ノード、構成マネージャ
ーでの 50

Payment Manager ノード、構成マ
ネージャーでの 48

Web Server ノード、構成マネ
ージャーでの 47

WebSphere Commerce インスタンス

(続き)

WebSphere ノード、構成マネージャーでの 47

WebSphere Commerce によって使用されるポート番号 4

WebSphere ノード、構成マネージャーでの 47



部品番号: CT1D1JA

Printed in Japan

GC88-9367-00



日本アイ・ビー・エム株式会社

〒106-8711 東京都港区六本木3-2-12

(1P) P/N: CT1D1JA

